岩手県文化財調査報告　第86集

岩手県内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ

平成元年度

岩手県教育委員会

序　文

埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかる上で、遺跡の性格・所在地、範囲等を正確に示すことが必要であることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年度以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、毎年増加する新たな遺跡の周知徹底を計る必要があると共に、遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の結果を明らかにするために、年度毎に報告書を作成することとなりました。

本報告書は、平成元年度に実施した県内の遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものであり、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり関連各位からの御協力・御指導を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

平成２年３月

岩手県教育委員会

教育長　中　原　良　一

例　言

1．本書は、岩手県教育委員会が平成元年度に実施した県内遺跡分布調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は、国庫補助金の交付を受けて実施したものである。

2．本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。

3．表面調査の遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地図を原図に、原寸大を原則とし、試掘調査の配置図は、各事業者より入手した1/1,000地図を原図に、縮尺1/2を原則として掲載したが、双方とも、調査範囲の広いものについては縮少してある。

4．試掘調査に係る遺跡の推定範囲についてはスクリーントーンで示し、試掘溝は実線で示した。

5．遺跡の名称については、遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものは遺跡名をも併記した。

6．本事業の調査・整理、報告書編纂等は、岩手県教育委員会文化課の高橋信雄・佐々木勝文化財主査があたり、県立埋蔵文化財センターの玉川英喜文化財専門員の協力を得た。

7．本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会文化課が保管している。

目　　次

序

例　　言

I　遺跡分布調査

1．一般国道４号　小鳥谷バイパス建設関連…… 3

2．一般国道46号　大釜道路建設関連…… 4

3．一般国道45号　久慈道路建設関連…… 5

4．一般国道45号　中野バイパス建設関連…… 6

5．一般国道46号　大槌道路建設関連…… 7

6．一般国道45号　釜石道路建設関連…… 9

7．一般国道283号　仙人峠道路建設関連……10

8．農免道（浜岩泉地区）建設関連……12

9．農免道（手代森地区）建設関連……13

10．世増ダム建設関連……15

11．滝名川改修工事関連……15

12．県営ほ場整備（赤石第１地区）関連……15

13．県営ほ場整備（赤石第２地区）関連……16

14．県営ほ場整備（上平沢地区）関連……17

15．県営ほ場整備（矢巾太田地区）関連……18

16．県営ほ場整備（西郷地区）関連……18

17．県営ほ場整備（愛宕南部地区）関連……19

18．県営ほ場整備（本宮地区）関連……20

II　試掘調査

1．一般国道107号　世田米バイパス建設関連 ……23

2．一般国道397号　道路改良事業関連 ……23

3．県道長坂・東稲・前沢線建設関連……25

4．県道岩泉線建設関連……26

5．広域農道整備（岩手町地区）関連……26

6．広域農道整備（九戸村地区）関連……27

7．落合ダム建設関連……28

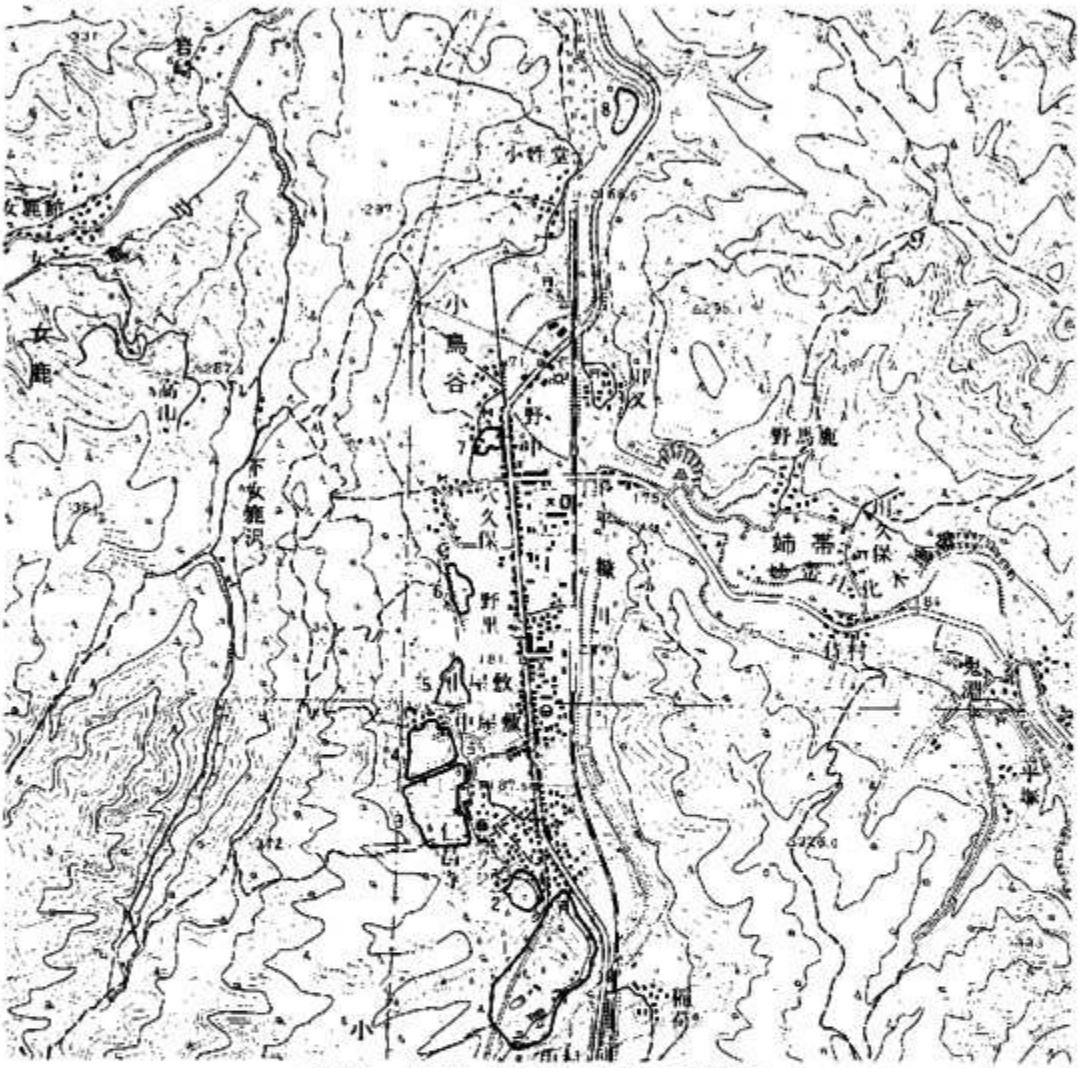
8．県営ほ場整備（赤石第１地区）関連……30

9．県営ほ場整備（赤石第２地区）関連……36
10．県営ほ場整備（矢巾太田地区）関連……38
11．県営ほ場整備（上平沢地区）関連……40
12．県営ほ場整備（西郷地区）関連……42
13．県営ほ場整備（本宮地区）……46
14．その他の事業に伴う試掘調査……46
15．県営住宅建設（黒石野平遺跡）……48
(1) 調査に至る経過……48
(2) 試掘調査結果……48
(3) 検出遺構……50
(4) 出土遺物……55
(5) おわりに……55
写真図版……57

I 分布調査

1．小鳥谷バイパス建設関連調査

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所　　調査期間：平成元年10月5～6日



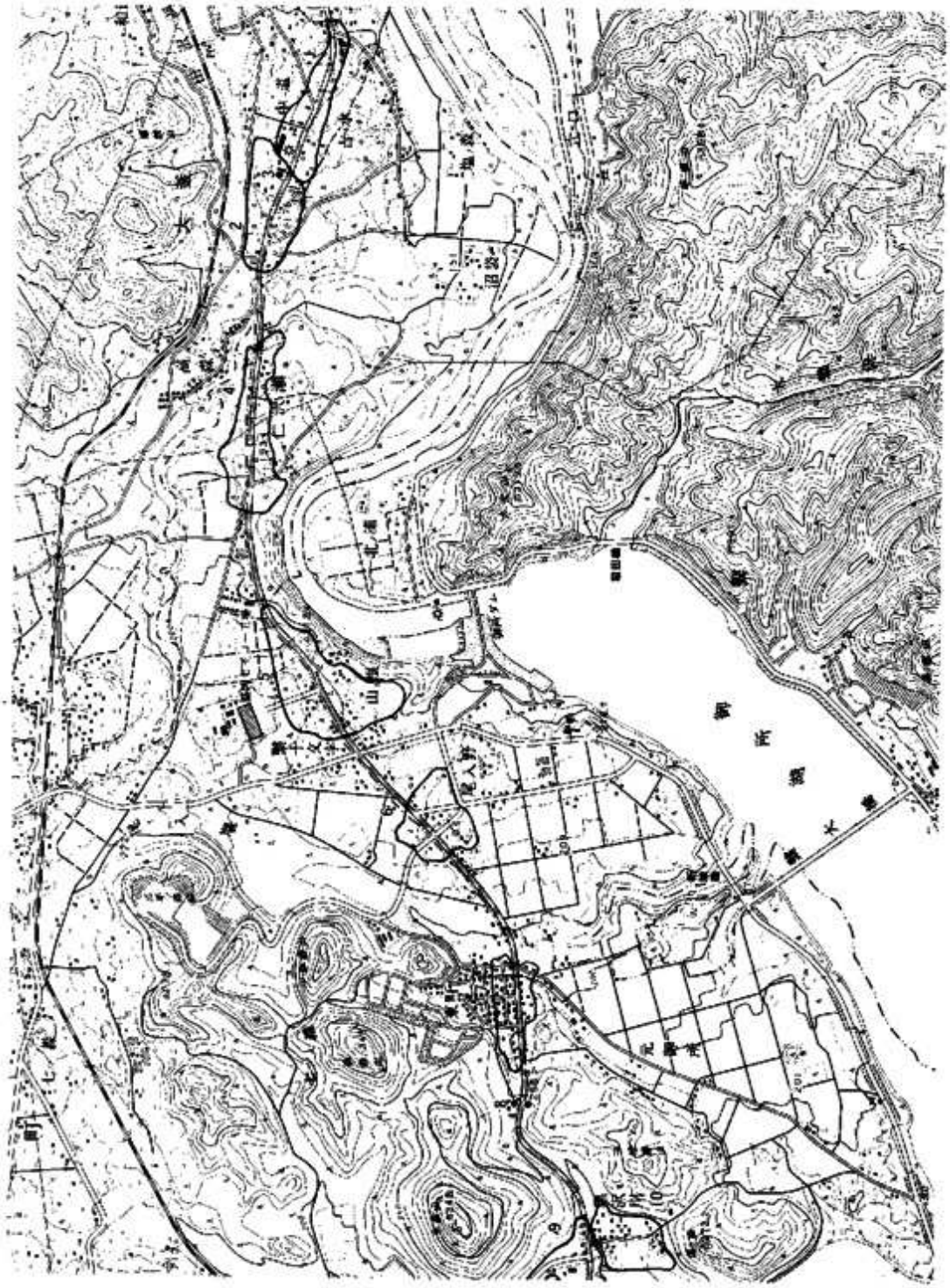
第1図　小鳥谷バイパス建設関連遺跡分布図

第1表　小鳥谷バイパス建設関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	記録保存の有無	備考
1	JF40-0016	五月館	一戸町小鳥谷	城館跡	山林	中世			
2	JF30-2094		一戸町小鳥谷	散布地	畑地	縄文・弥生	縄文土器・弥生土器	新規	
3	〃 -2072		一戸町小鳥谷	集落跡	〃	縄文	縄文一部	〃	多量の遺物散在
4	〃 -2052		一戸町小鳥谷	散布地	〃	〃	〃	〃	
5	〃 2022		一戸町小鳥谷	〃	〃	〃	〃	〃	
6	〃 -1092		一戸町小鳥谷	〃	〃	〃	〃	〃	
7	〃 1043		一戸町小鳥谷	〃	〃	古代	土師器	〃	
8	〃 -0047		一戸町小鳥谷	〃	〃	縄文	縄文土器	〃	

2．大釜道路建設関連調査

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所　　調査期間：平成元年10月11～12日



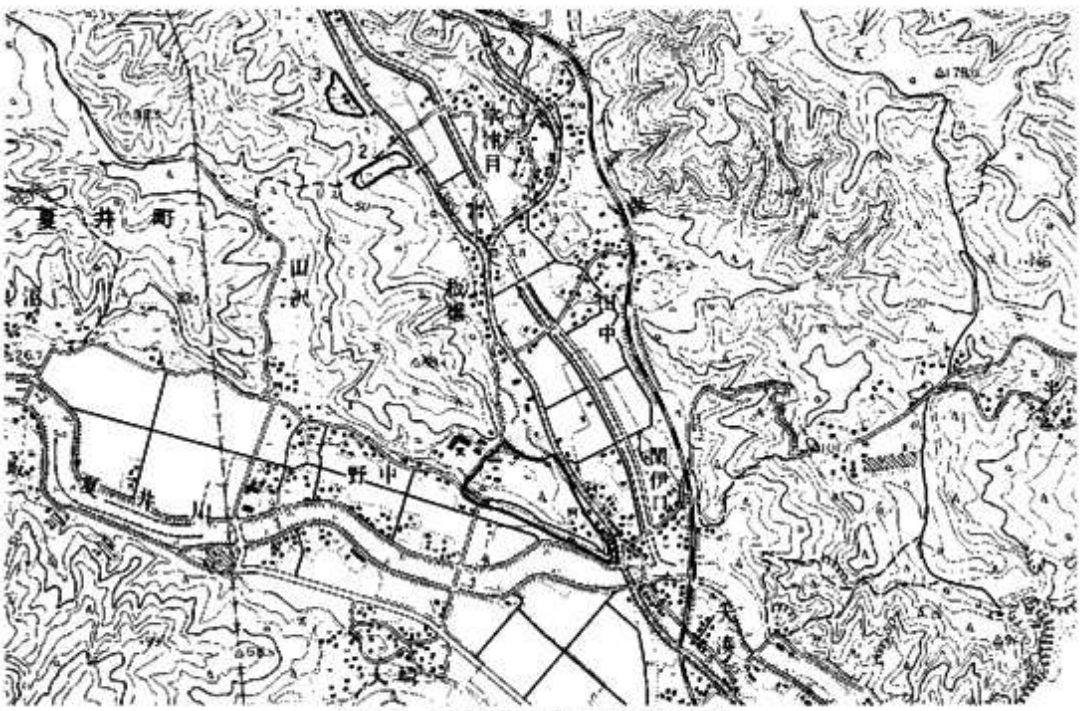
第２図　大釜道路建設関連遺跡分布図

第2表　大釜道路建設関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	I.E14−0351	中道II	滝沢村大釜字千道・古水	散布地	畑地	縄文	縄文土器	新規	
2	〃 −0289	中道I	滝沢村大釜字千道・古水	〃	〃	〃	〃		
3	〃 −0288	月向一里塚	滝沢村大釜字千道	塚		江戸			県指定史跡
4	〃 0127	仁兵衛II	滝沢村大釜字仁兵衛	散布地	畑地・山林	縄文	縄文土器		仁兵衛II・III・IVを統合
5	〃 −0866	坂端II	雫石町振興	〃	〃	〃	〃		坂端II・IVを統合
6	〃 −1001	坂端I	雫石町振興	〃	畑地	〃	〃		
7	I.E13−1355	七ツ森II	雫石町七ツ森	〃	宅地・畑地	〃	〃	新規	
8	〃 −1248	七ツ森一里塚	雫石町七ツ森	塚		江戸			県指定史跡
9	〃 1263	七ツ森I	雫石町七ツ森	散布地	畑地・山林	縄文	縄文土器		
10	〃 −1284	七ツ森V	雫石町七ツ森	〃	畑地	〃	〃		

3．久慈道路建設関連調査

事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所　　調査期間：平成元年8月8～10日



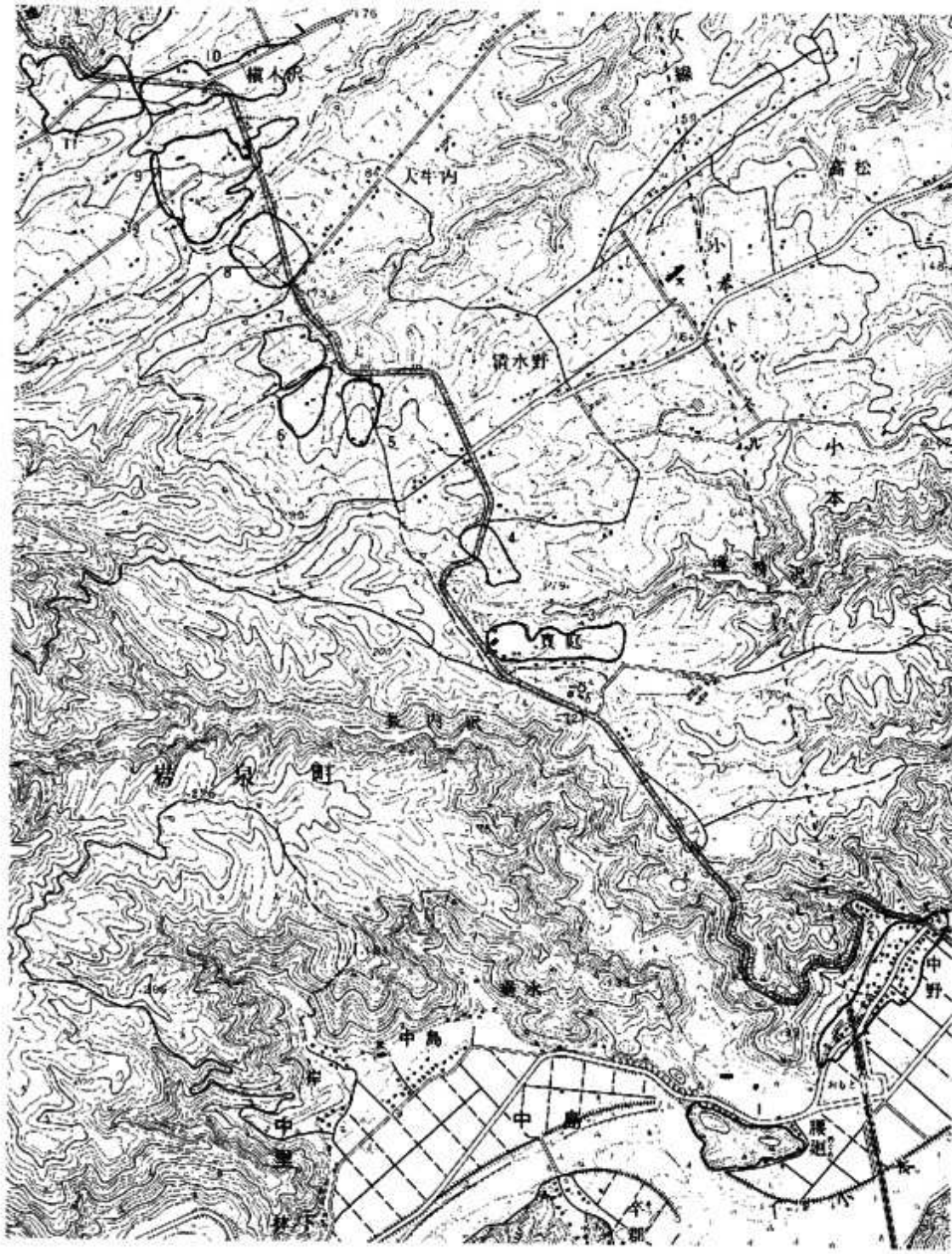
第3図　久慈道路建設関連遺跡分布図

第3表　久慈道路建設関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	J.G10−2182	鼻繋跡	久慈市夏井町鳥谷	城館跡・集落跡	山林・畑地	縄文・古代・中世	縄文土器・土師器		
2	〃 −1077		久慈市夏井町鳥谷	散布地	〃	縄文・古代	〃	新規	
3	〃 −1066		久慈市夏井町鳥谷	〃	畑地	縄文	縄文土器	〃	

4．中野バイパス建設関連調査

事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所　　調査期間：平成元年10月7～8日



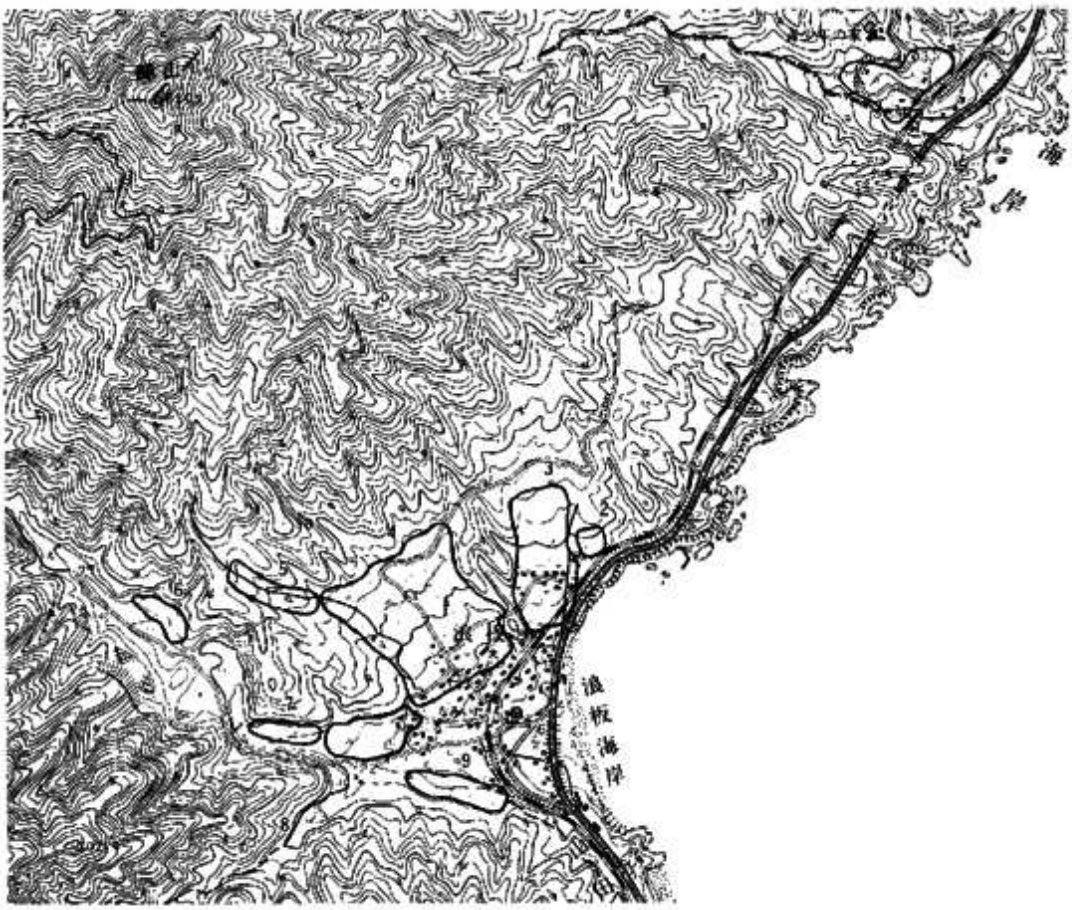
第4図　中野バイパス建設関連遺跡分布図

第4表　中野バイパス建設関連遺跡一覧

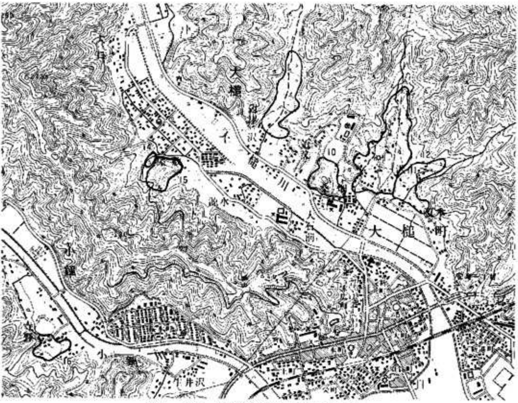
番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	KG54 3909	櫻庭館	岩泉町小本字館向	城館跡	山頂	中世			
2	〃 1075	中野	岩泉町小本字中野	集落跡	平地・傾斜	縄文・古代	縄文土器・土師器		
3	KG53 0353		岩泉町小本字大生内	〃	畑地	縄文	縄文土器	新規	
4	〃 0321		岩泉町小本字大生内	散布地	畑地・草地	〃	〃		範囲拡大
5	KG43 2368		岩泉町小本字大生内	〃	〃	〃	〃	新規	
6	〃 2364		岩泉町小本字大生内	集落跡	畑地	〃	〃	〃	
7	〃 2243		岩泉町小本字大生内	散布地	畑地・草地	〃	〃	〃	
8	〃 2212		岩泉町小本字大生内	〃	畑地・山林	〃	〃	〃	
9	〃 1270		田野畑村田代第9地割字大芦	集落跡	〃	〃	〃	〃	
10	〃 1167	上鼠木沢	田野畑村田代第9地割字大芦	〃	畑地	〃	〃		範囲拡大
11	〃 1165		田野畑村田代第9地割字大芦	〃	畑地	〃	〃	新規	

5．大槌道路建設関連調査

事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所　　調査期間：平成元年10月15～16日



第5－1図　大槌道路建設関連遺跡分布図



第５－２図　大槌道路建設関連遺跡分布図

第５表　大槌道路建設関連（第一次調査）遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	MG24 0013	[illegible]	山田町船越	散布地	畑地・山林	縄文	縄文土器		
2	MG23 1354	[illegible]	大槌町吉里吉里字[illegible]	[illegible]	畑・山林	〃	縄文土器・[illegible]		
3	〃 －1373	[illegible]	大槌町吉里吉里字[illegible]	散布地	畑地・山林	〃	縄文土器	新規	
4	〃 1351	[illegible]ヶ沢	大槌町吉里吉里字[illegible]	〃	林地・水田	〃	〃		範囲拡大
5	〃 1385	[illegible]	大槌町吉里吉里字[illegible]	生産遺跡	山林	中・近世	鉄滓	新規	
6	〃 －1480	[illegible]	大槌町吉里吉里字[illegible]	〃	〃	〃	〃		
7	〃 2225	[illegible]	大槌町吉里吉里字[illegible]	〃	宅地・山林	〃	〃	新規	
8	〃 －2227	[illegible]	大槌町吉里吉里字[illegible]	散布地	草地	縄文	縄文土器		
9	〃 2341	[illegible]	大槌町吉里吉里字[illegible]	生産遺跡	畑地	中・近世	鉄滓	新規	
10	MG33 0022	[illegible]	大槌町大槌字[illegible]	城館跡	山林	〃			
11	〃 －0097	[illegible]	大槌町大槌字[illegible]	散布地	畑地	縄文	縄文土器		範囲拡大
12	〃 1008	[illegible]	大槌町大槌字[illegible]	集落跡	宅地・山林	縄文・古代	縄文土器・土師器		
13	MG34 0659		大槌町大槌字[illegible]	散布地	畑地	縄文	縄文土器	新規	
14	〃 0390		大槌町大槌字[illegible]	生産遺跡	山林・畑地	中・近世	鉄滓	〃	
15	〃 －0391	[illegible]	大槌町大槌字[illegible]	城館跡	山林	〃			
16	〃 －2214		大槌町小鎚字寺野	散布地	畑地・[illegible]	縄文	縄文土器	新規	

6．釜石道路建設関連調査

事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所　　調査期間：平成元年10月16～17日

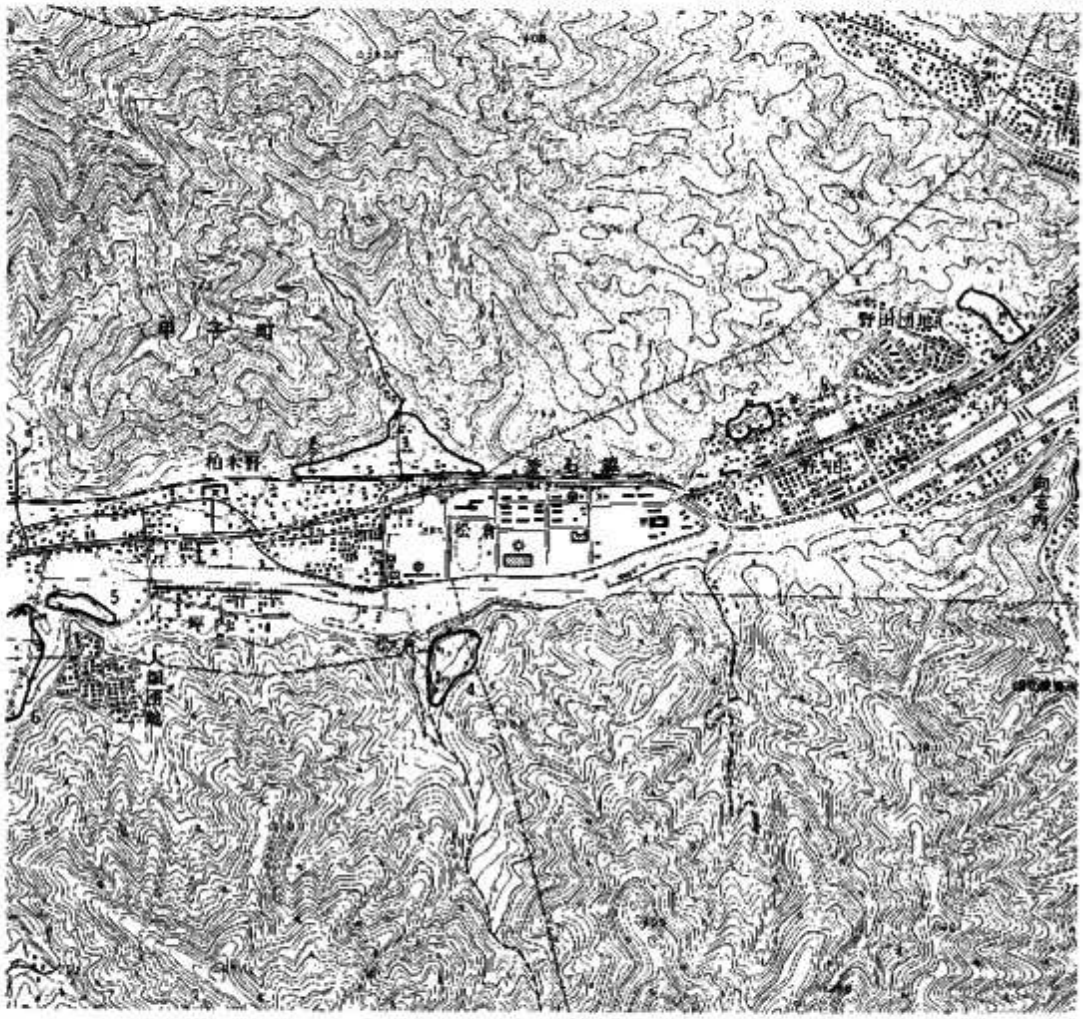
第6図　釜石道路建設関連遺跡分布図

第6表　釜石道路建設関連（第一次調査）遺跡一覧

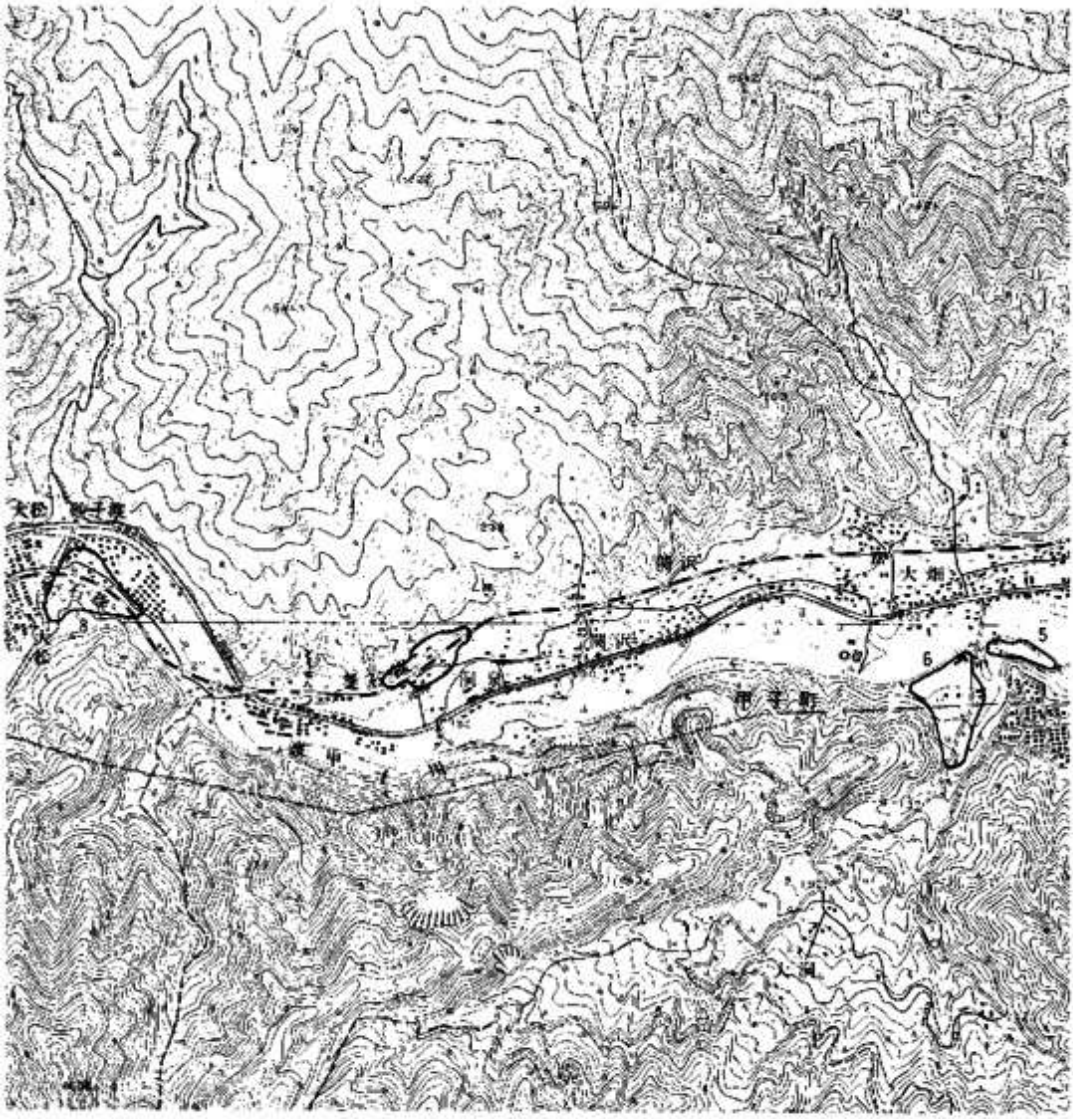
番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	教育委員会所有	備考
1	MG62−0029	女遺跡1	釜石市大字甲子字女遺跡	散布地	畑地・原野	縄文	縄文土器		
2	〃 0036	女遺跡II	釜石市大字甲子字女遺跡	〃	〃	〃	〃	新規	
3	〃 2056	鎌ケ丘	釜石市八雲町	〃	宅地	〃	〃		宅地化
4	〃 2063	八雲町	釜石市八雲町	〃	〃	〃	〃		宅地化
5	〃 −2072	大人場上	釜石市八雲町	包蔵地	山林	縄文・古代	縄文土器・石器		
6	MG71−0202	下小川	釜石市小川町・川川	散布地	宅地	縄文	縄文土器		
7	〃 1218	向居内	釜石市甲子町	〃	宅地・畑地	〃	〃	新規	
8	〃 −2209	大沢	釜石市甲子町	〃	宅地	〃	〃		宅地化

7. 仙人峠道路建設関連調査

事業者：建設省東北地方建設局二陸国道工事事務所　　調査期間：平成元年10月17～18日



第7－1図　仙人峠道路建設関連遺跡分布図



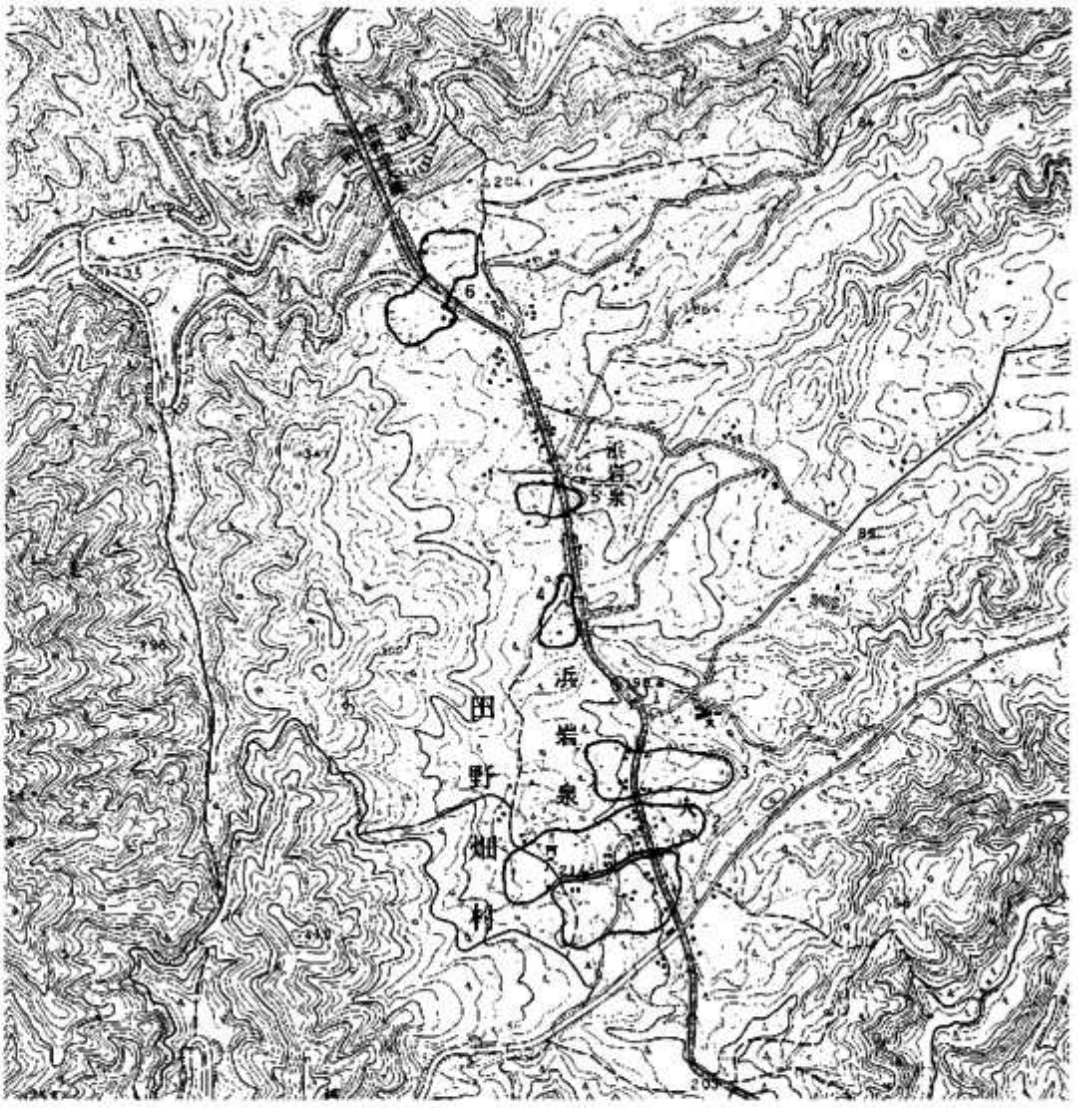
第７－２図　仙人峠道路建設関連遺跡分布図

第７表　仙人峠道路建設関連（第一次調査）遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	MG71 0264	松館	釜石市甲子町道内	城館跡	畑地跡・道路	不明			別称安倍館
2	〃 −1101	野田	釜石市甲子町野田	〃	宅地・畑地	縄文	縄文土器		
3	〃 −1031		釜石市甲子町松倉	〃	畑地	〃	〃	新規	
4	〃 −2013	松倉牛生水源地	釜石市甲子町松倉	〃	宅地・畑地	〃	〃		
5	MG70− 1791	坪内	釜石市甲子町大湯	〃	水田・畑地	〃	〃		
6	〃 2207	大湯	釜石市甲子町大湯	〃	畑地	縄文・古代	縄文土器・土師器	新規	
7	〃 1085	泉屋	釜石市甲子町泉屋	〃	畑地・宅地	縄文	縄文土器		
8	MF79 1373	外子原	釜石市甲子町外子原	〃	畑地	縄文・古代	縄文土器・土師器	新規	

8．農免道（浜岩泉地区）建設関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期間：平成元年10月6～7日



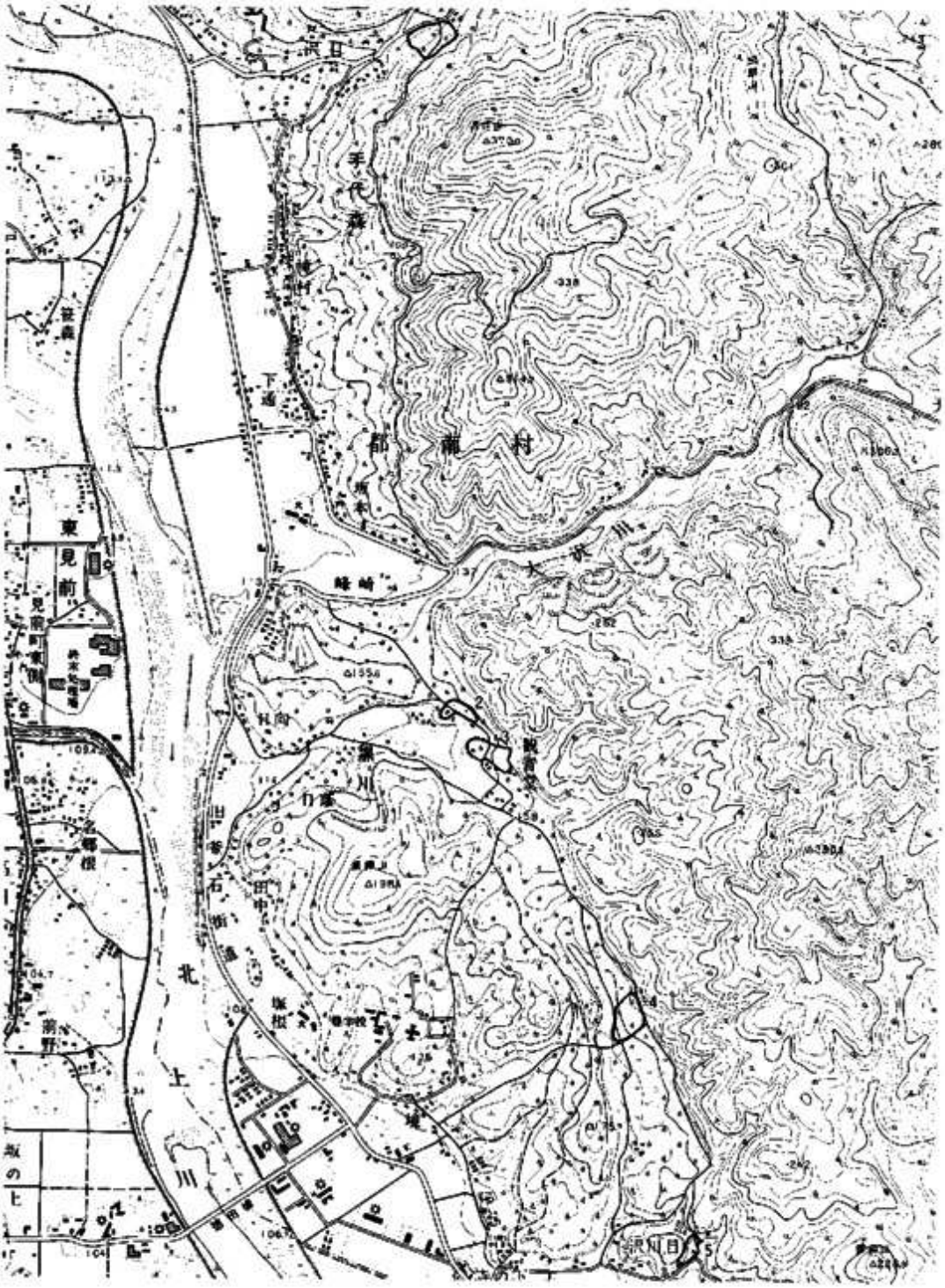
第8図　農免道（浜岩泉地区）建設関連遺跡分布図

第8表　農免道（浜岩泉地区）建設関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	立地	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	KG13-0036	浜岩泉II	田野畑村浜岩泉字浜岩泉	集落跡	段丘	縄文	縄文土器		
2	〃 -0016	浜岩泉I	田野畑村浜岩泉字浜岩泉	〃	〃	〃	〃		
3	KG33 2086	浜岩泉III	田野畑村浜岩泉字浜岩泉	〃	〃	〃	〃		
4	〃 -2044	浜岩泉IV	田野畑村浜岩泉字浜岩泉	散布地	段丘・山林	〃	〃		
5	〃 2003	浜岩泉V	田野畑村浜岩泉字浜岩泉	〃	段丘・畑地	〃	〃	新規	
6	〃 1080	浜岩泉VI	田野畑村浜岩泉字浜岩泉	〃	〃	〃	〃		浜岩泉V・VI統合

9．農免道（手代森地区）建設関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期間：平成元年10月12～13日



第9図　農免道（手代森地区）建設関連遺跡分布図

第9表　農免道（手代森地区）建設関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	立地	形状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	LE22 2311		都南村手代森字おの場	散布地	湿地・水田	縄文・古代	縄文土器・土師器		
2	LE32−2304		都南村黒川字木宮	〃	湿地	古代	土師器	新規	
3	〃 −2315		都南村黒川字蟹ヶ沢	〃	〃	〃	〃	〃	
4	LE47 6039	沢	都南村黒川	〃	〃	縄文	縄文土器		
5	LE44−1003		滝沢村乙部字杉田 III	〃	〃	〃	〃	新規	

10．世増ダム建設関連調査

事業者：農林水産省八戸平原開拓事務所　　調査期間：平成元年6月27～29日

第10図　世増ダム建設関連遺跡分布図

第10表　世増ダム建設関連遺跡一覧

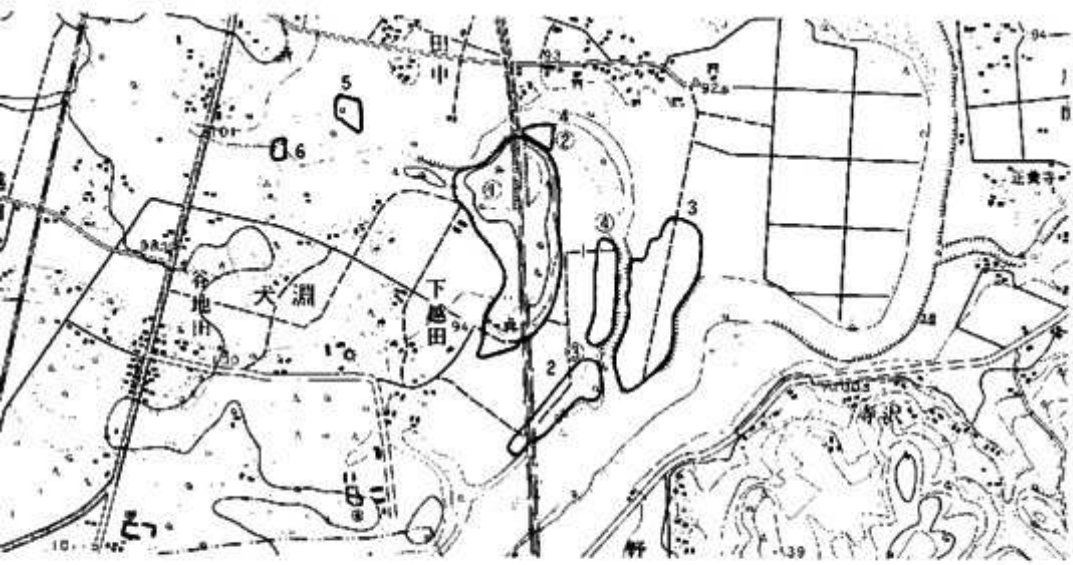
番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	形状	時代	遺物	新発見・再発見	備考
1	IF63-0232	水吉I	遠米町大字軽米字水吉	散布地	段丘・丘陵	縄文	縄文土器		
2	〃 -0235	水吉II	軽米町大字軽米字水吉	〃	〃	〃	〃		
3	〃 0244	水吉IV	軽米町大字軽米字水吉	〃	畑中	縄文・三代	縄文土器・土師器		
4	〃 -0249	水吉V	軽米町大字軽米字水吉	〃	沼地・山林	縄文	縄文土器		
5	〃 -0280	長倉IV	軽米町大字軽米字長倉	〃	湿地・平地	〃	〃		
6	〃 -0321	水吉III	軽米町大字軽米字水吉	〃	湿地・山林	〃	〃	新規	水吉IIIを統合
7	〃 -0361	水吉VI	軽米町大字軽米字水吉	包蔵地	湿地	〃	〃		水吉VIを統合
8	〃 0365	長倉V	軽米町大字軽米字長倉	散布地	水田	〃	〃	新規	
9	〃 -1087	大鳥V	軽米町大字軽米字大鳥	〃	畑地	〃	〃		
10	〃 -1089	大鳥IV	軽米町大字軽米字大鳥	〃	畑地・平地	〃	〃		
11	〃 -1160	大鳥III	軽米町大字軽米字大鳥	〃	畑地	〃	〃		
12	〃 -1194	大鳥II	軽米町大字軽米字大鳥	〃	湿地・山林	〃	〃		
13	〃 -2002	下尾田II	軽米町大字軽米字字下尾田	〃	湿地	〃	〃	新規	
14	〃 -2029	大鳥I	軽米町大字軽米字大鳥	包蔵地	〃	縄文・古代	縄文土器・土師器		
15	〃 2123	長倉VI	軽米町大字軽米字長倉	散布地	〃	縄文	縄文土器		
16	〃 -2150	長倉VII	軽米町大字軽米字長倉	〃	畑地・山林	〃	〃		
17	〃 2280	長倉VIII	軽米町大字軽米字長倉	〃	畑地	〃	〃		

11. 滝名川改修工事関連調査

事業者：岩手県土木部　　調査期間：平成元年7月4～6日

12. ほ場整備（赤石第一地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期間：平成元年4月25～26日



第11図　滝名川改修工事・ほ場整備（赤石第一地区）関連遺跡分布図

第11表　滝名川改修工事関連遺跡一覧

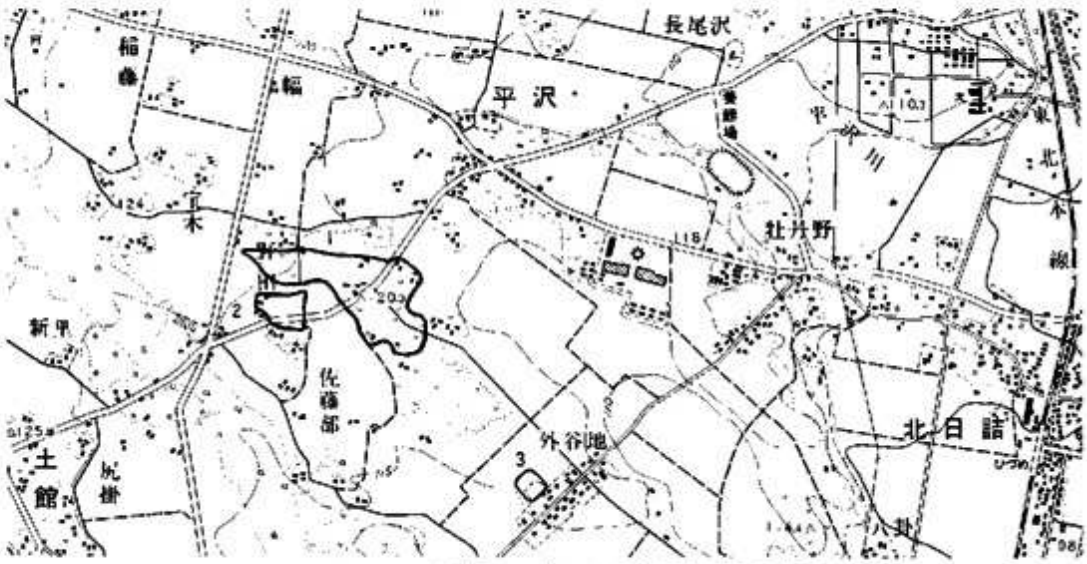
番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	I.E87−0126		紫波郡矢巾町字西田	集落跡	水田	古代	土師器	新規	
2	I.E77 2197		紫波郡矢巾町字西田	〃	〃	〃	〃	〃	
3	〃 −2190	下川原Ⅱ	紫波郡矢巾町字下川原	〃	〃	〃	〃		範囲拡大
4	〃 2145	西田北	紫波郡矢巾町字西田	〃	〃	縄文	縄文土器		
5	〃 2039		紫波郡矢巾町字滝名川	散布地	畑地	古代	土師器	新規	
6	〃 2036	矢巾南工業団	紫波郡矢巾町字西田	〃	草地・畑地	〃	〃		

第12表　ほ場整備（赤石第一地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
①	I.E77−2172	西田	紫波町大巾字西田	集落跡	山林	縄文・古代			一部発掘調査済
②	〃 2145	西田北	紫波町大巾字西田	〃	水田	縄文	縄文土器		
③	〃 −2197		紫波町大巾字西田	〃	〃	古代・縄文	土師器・縄文土器	新規	〃成元年度試掘
④	I.E87 0126		紫波町大巾字西田	〃	〃	〃	〃	〃	〃

13．ほ場整備（赤石第二地区）

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成元年4月26日



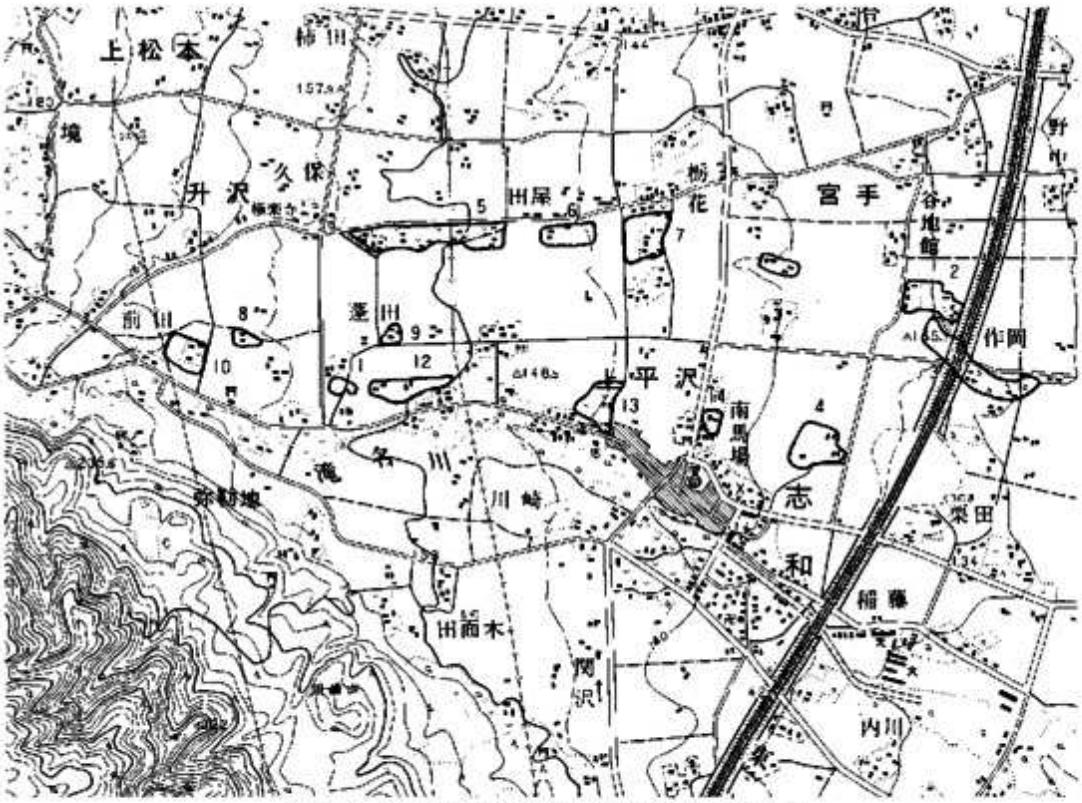
第12図　ほ場整備（赤石第二地区）関連遺跡分布図

第13表　ほ場整備（赤石第二地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現況	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	I.E66−2291	平沢野田Ⅰ	紫波町平沢字野田	散布地	畑地・水田	古代・縄文	土師器・縄文土器		平成元年度試掘
2	I.E76 0200	平沢野田Ⅱ	紫波町平沢字野田	〃	畑地	〃	〃		〃
3	〃 −0257		紫波町北日詰字外谷地	〃	水田・畑地	古代	土師器	新規	〃

14. ほ場整備（上平沢地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成元年４月27日



第13図　ほ場整備（上平沢地区）関連遺跡分布図

第14表　ほ場整備（上平沢地区）関連跡一覧

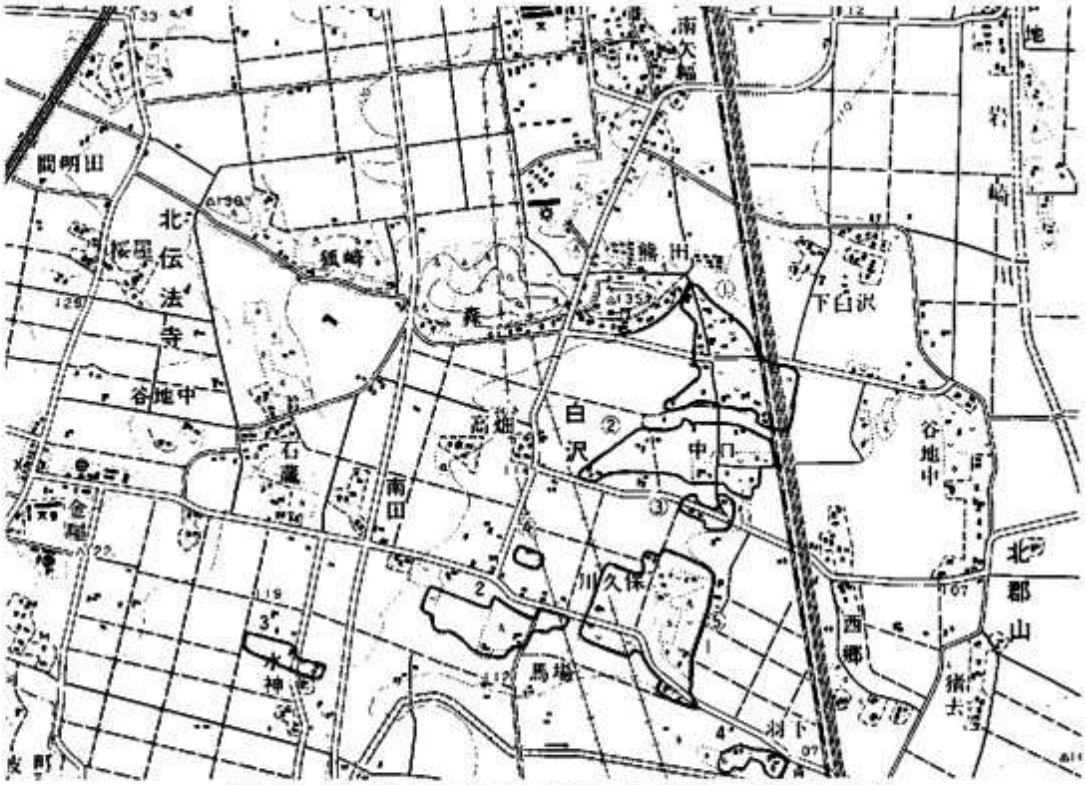
番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	I.E66 0091		紫波町高水字柳花	散布地	畑地・水田	古代	土師器	新規	
2	〃 −1085		紫波町当子字谷地館	〃	畑地	〃	〃	〃	
3	〃 −1026	上平沢新田	紫波町上平沢字蓬田	集落跡	〃	〃	〃		埋蔵物調査済
4	〃 −1052		紫波町上平沢字南馬場	散布地	水田・畑地	〃	〃	新規	
5	I.E65−0089	升沢柿屋	紫波町升沢字柿屋	集落跡	畑地・水田	縄文・古代	縄文土器・土師器		
6	〃 0084		紫波町高水字柳田	散布地	〃	古代	土師器	新規	
7	〃 −0086		紫波町当子字宮手	〃	〃	〃	〃	〃	
8	〃 −1213		紫波町升沢字田中	〃	畑地	〃	〃	〃	平成元年度 確認調
9	〃 −1218		紫波町上平沢	〃	水田・畑地	〃	石器	〃	〃
10	〃 −1222		紫波町升沢	〃	〃	〃	土師器・須恵器	〃	〃
11	〃 1237		紫波町上平沢	集落跡	〃	縄文	縄文土器	〃	
12	〃 −1238		紫波町上平沢字蓬田	散布地	畑地・水田	古代	土師器	〃	
13	〃 1335		紫波町上平沢字川崎	集落跡	〃	〃	〃	〃	
14	〃 −1348		紫波町上平沢南馬場	散布地	畑地	〃	〃	〃	

15．ほ場整備（矢巾太田地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期間：平成元年７月４～６日

16．ほ場整備（西郷地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期間：平成元年７月５～６日



第14図　ほ場整備（矢巾太田地区・西郷地区）関連遺跡分布図

第15表　ほ場整備（矢巾太田地区）関連遺跡一覧

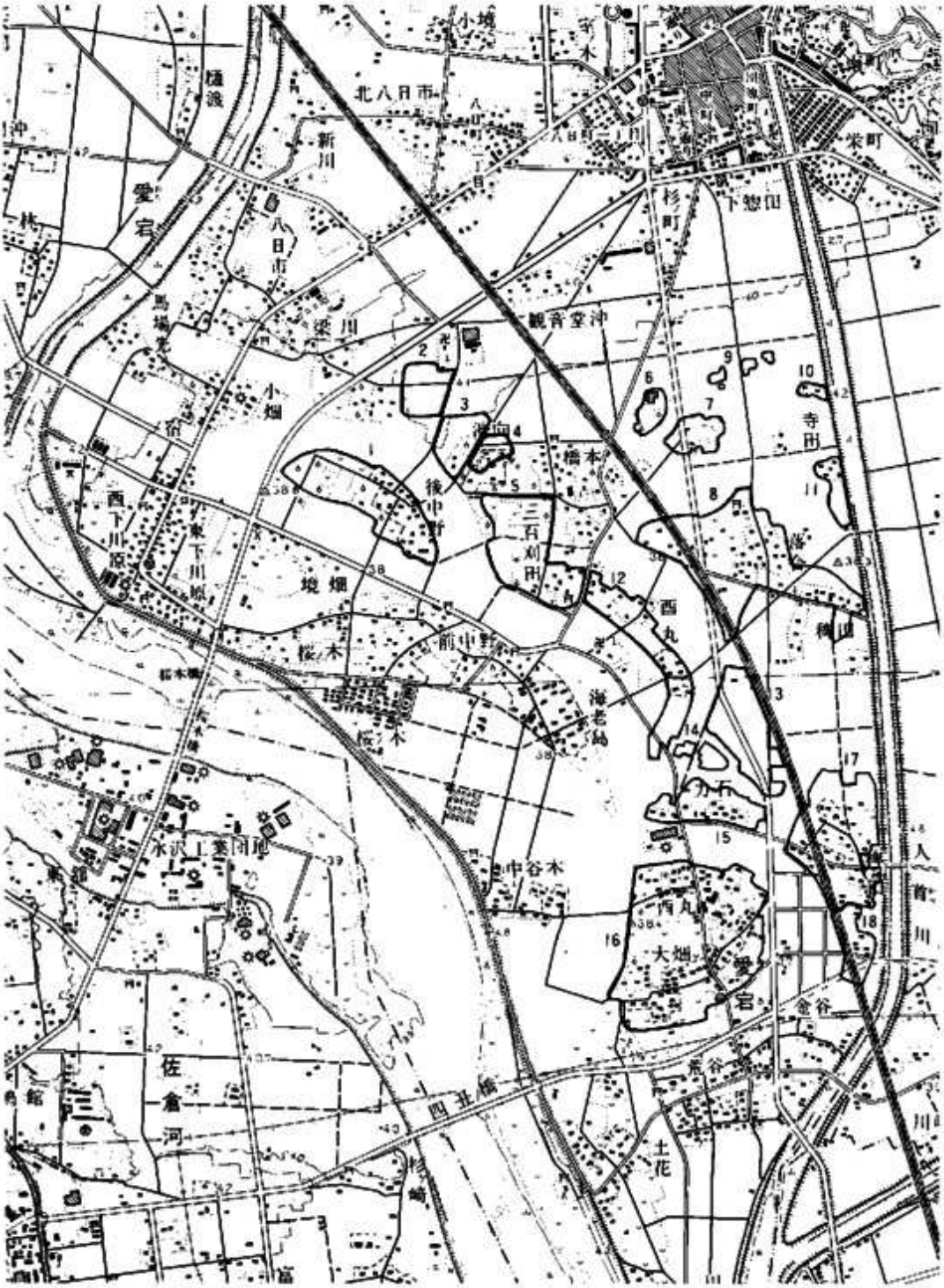
番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	I.E56－0364	羽下	矢巾町白沢第13地割羽下	集落跡	畑地・水田	縄文・古代	縄文土器・土師器		
2	〃　0277	不動馬場	矢巾町白沢第14地割馬場	〃	水田・畑地	〃	〃		
3	〃　－0189	太田畑	矢巾町太田第３地割谷地地	〃	畑地	古代	土師器		平成元年度　試掘
4	〃　－1314	北都山	矢巾町北都山字10地割屋敷	散布地	〃	〃	〃		

第16表　ほ場整備（西郷地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
①	I.E56－2206	白沢Ⅰ	矢巾町白沢第３地割	古墳・集落跡	畑地	古代	土師器		白沢Ⅲ・Ⅸ・Ⅺを統合 平成元年度　一部試掘
②	I.E56　0325	白沢Ⅱ	矢巾町白沢第４地割	集落跡	水田・畑地	〃	〃		白沢Ⅷ・Ⅹを統合 平成元年度一部試掘
③	〃　－0344	白沢Ⅲ	矢巾町白沢第４地割	散布地	畑地・宅地	〃	〃	新規	平成元年度一部試掘
④	〃　－0248	白沢Ⅳ	矢巾町白沢第12地割川久保	〃	水田	〃	〃		〃
⑤	〃　0261	羽下	矢巾町白沢第13地割羽下	集落跡	畑地・水田	古代・縄文	土師器・縄文土器		白沢Ⅳ・Ⅴを統合 平成元年度一部試掘

17．ほ場整備（愛宕南部地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期間：平成元年５月８～10日、６月13～14日



第15図　ほ場整備（愛宕南部地区）関連遺跡分布図

第17表　ほ場整備（愛宕南部地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	NE07−1067	後口野	江刺市愛宕字後口野	集落跡	畑地	古代	土師器・須恵器		
2	〃 1120	観音堂和	江刺市愛宕字観音堂南	〃	水田・畑地	〃	〃		
3	〃 −1151	田谷地館	江刺市愛宕字田谷地	単館跡・城館跡	〃	〃	〃		
4	〃 −1167	池向	江刺市愛宕字池向	散布地	畑地・水田	〃	土師器・須恵器		
5	〃 1194	七台列回	単高跡	〃	〃	〃			
6	〃 1198	橋本	江刺市愛宕字橋本	〃	畑地	〃	〃		
7	〃 1158	和ノ大	江刺市愛宕字和ノ大	〃	〃	〃	土師器		
8	〃 −126	諸合	江刺市愛宕字諸合	〃	畑地・水田	古代・中世	土師器・須恵器・陶磁器		
9	〃 −1232		江刺市愛宕字和ノ大	散布地	畑地	古代	土師器・須恵器	新規	
10	〃 1244		江刺市愛宕字寺田	〃	〃	〃	土師器	〃	
11	〃 −1274	寺田	江刺市愛宕字寺田	〃	〃	〃	〃		
12	〃 −2126	西元	江刺市愛宕字西元	〃	〃	〃	弥生土器・須恵器		
13	〃 −2273	力石・堰	江刺市愛宕字力石	集落跡	水田・畑地	古代・中世	弥生土器・土師器・須恵器		
14	〃 −2285	力石II	江刺市愛宕字力石	散布地	〃	〃	〃		
15	〃 2298	力石III	江刺市愛宕字力石	集落跡	畑地・水田	〃	〃		
16	NE17−0127		江刺市愛宕字大堀	散布地	畑中	古代	土師器・須恵器	新規	
17	〃 0215	堀ノ東原	江刺市愛宕字堀ノ	集落跡	畑地・水田	〃	〃		
18	〃 −0265	中屋敷	江刺市愛宕字力石	散布地	〃	〃	土師器		

18. ほ場整備（本宮地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期間：平成元年９月18～20日

第16図　ほ場整備（本宮地区）関連遺跡分布図

第18表　ほ場整備（本宮地区）関連遺跡一覧

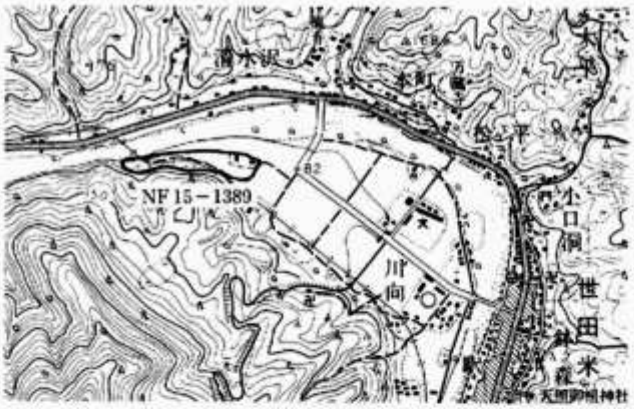
番号	遺跡コード番号	遺跡名	所在地	種別	現状	時代	遺物	新発見の有無	備考
1	LE16−2155	野古A	盛岡市本宮字野古・北	集落跡	畑地	古代	土師器		
2	〃 2170	野古B	盛岡市本宮字野古・北	散布地	畑地・水田	〃	〃		平成元年度一部試掘
3	LE26−0102		盛岡市本宮字下道	〃	畑地	〃	〃	新規	

II 試掘調査

1．川向遺跡（NF15—1389）

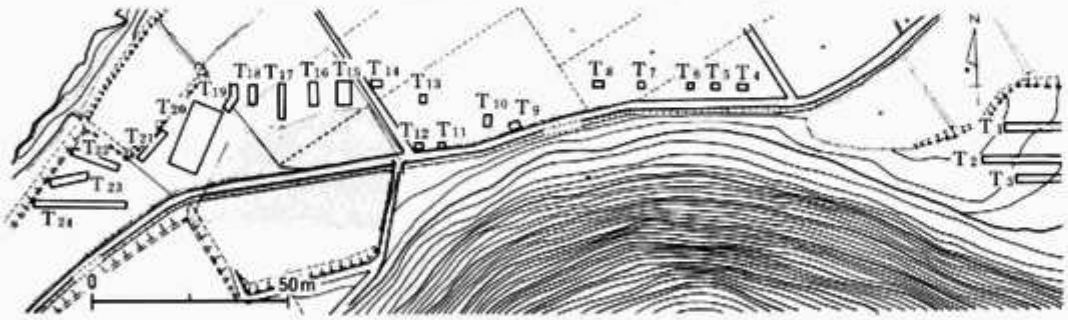
所在地；気仙郡住田町世田米字川向

一般国道107号世田米バイパス建設工事に関連し、県大船渡土木事務所の依頼を受け、5月8日～10日に試掘調査を実施した。



第17図　川向遺跡位置図

当該遺跡は、気仙川の左岸にあり丘陵端に小規模にみられる河岸段丘上に立地する。標高は、82～83mである。遺跡は、縄文時代晩期の土器が散布していたとされるが、開田等により、地形の改変等を受け、遺跡の範囲等についても明瞭でなかった。第18図に示した通りトレンチを設定し、調査を実施した。遺物の検出されたのは、スクリーン・トーンで示した範囲だけである。下位の水田面では、礫層まで数十cmのところもあるし、また、水田床を作るための置土なども認められ、大幅な地形の改変がみられる。スクリーン・トーンで示した範囲外のトレンチでは、遺構・遺物とも検出されなかった。遺物の集中区については、平成2年度に発掘調査を実施する予定である。



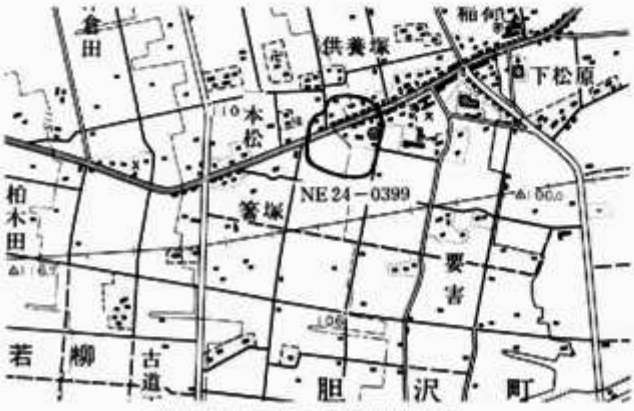
第18図　川向遺跡トレンチ配置図

2．箸塚要害遺跡（NF24—0399）

所在地：胆沢郡胆沢町

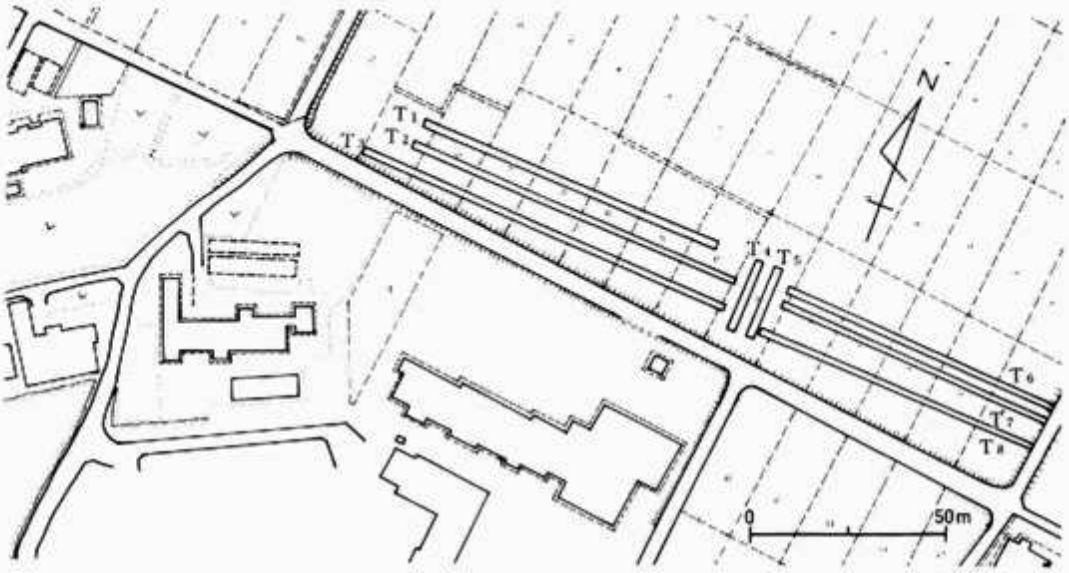
一般国道397号の道路改良工事に関連し、県水沢土木事務所の依頼を受け、8月・10月・12月に各2日間ずつ試掘調査を実施した。

当該遺跡は、胆沢平野のほぼ中央部に位置し周囲がほぼ平坦な、標高約100mほどの低位段丘に立地する。

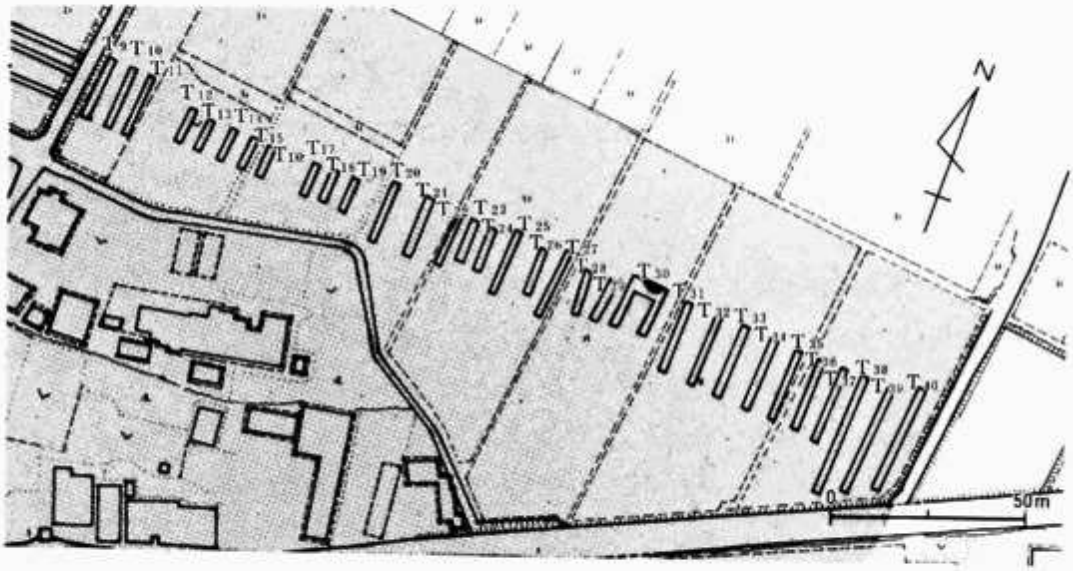


第19図　箸塚要害遺跡位置図

遺跡の広がりを確認するため、第20—1、第20—2図に示した通り、工事区のほぼ全域にトレンチを入れた。第20—1図の範囲では、水田下に黄褐色シルトを薄く残している個所も部分的にみられたが、大半は、礫層或は青灰色粘土層であり、表土に比べ、下位では土層の変化がみられる。第20—2図の範囲では、黄褐色シルトをのせている部分が多い。T30において、黄褐色シルト層を切り込んだ竪穴住居1棟が検出され、縄文土器数片が出土した。他のトレンチにおいては、遺構・遺物とも検出されておらず、遺跡の中心は、竪穴住居址の検出された個所より南に広がると想定される。竪穴住居址については、平成2年度以降調査する予定である。



第20—1図　菅塚要害遺跡トレンチ配置図(1)



第20—2図　菅塚要害遺跡トレンチ配置図(2)

3．東福寺遺跡（NE66－1226）・月館II遺跡（NE66－1225）

所在地　西磐井郡平泉町長島字月館

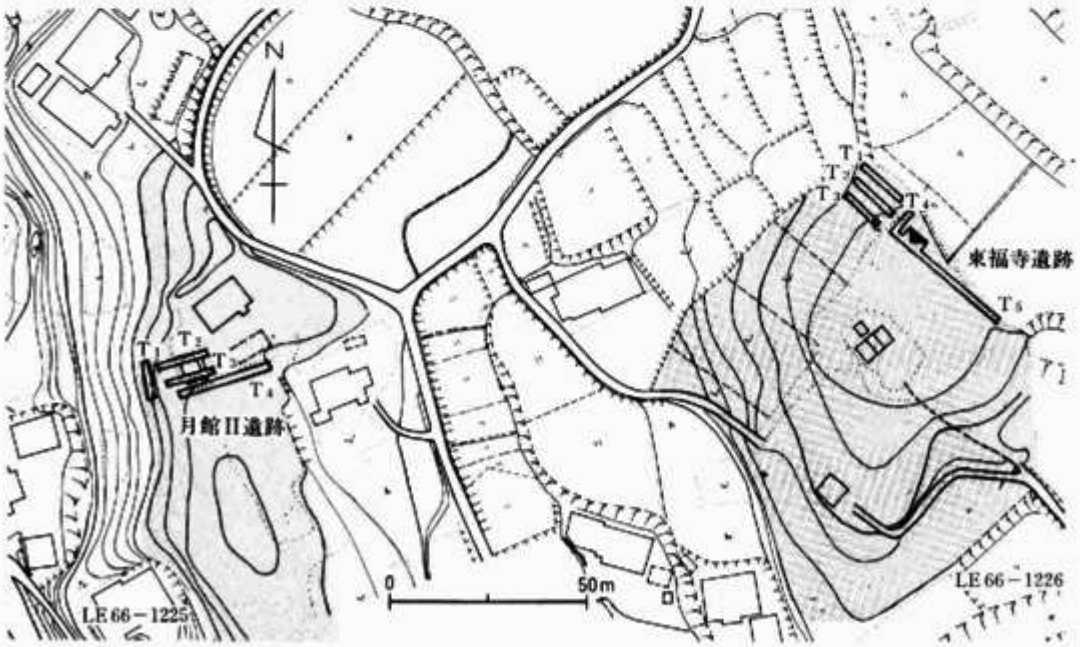
県道長坂・東稲・前沢線の道路改良工事に関連し、県土木部一関土木事務所の依頼を受け、東福寺遺跡は、平成元年10月18～20日に、月館II遺跡は、平成元年12月18・19日に調査を実施した。

東福寺遺跡、月館II遺跡とも、標高約40～50mの丘陵上に立地し、現況は東福寺遺跡が墓地・山林、月館II遺跡が畑地・山林となっている。

第21図　遺跡位置図

東福寺遺跡では、第22図に示すとおり、T_1～T_5の5本のトレンチを設定して調査した。T_1～T_4からは、遺構・遺物とも発見されなかったが、T_5より平安時代の竪穴住居跡1棟が検出された。住居跡は、東側斜面で消失しており、北東コーナーは検出不能である。遺物は、ロクロ使用土師器坏の小片が出土している。

月館II遺跡では、遺跡北端部にT_1～T_4の4本のトレンチを設定して調査したが、そのいずれからも遺構・遺物とも発見されなかった。



第22図　東福寺・月館II遺跡トレンチ配置図

4．稲荷窪遺跡（ＬＥ06—0398）

所在地　盛岡市上田稲荷窪・狐崎

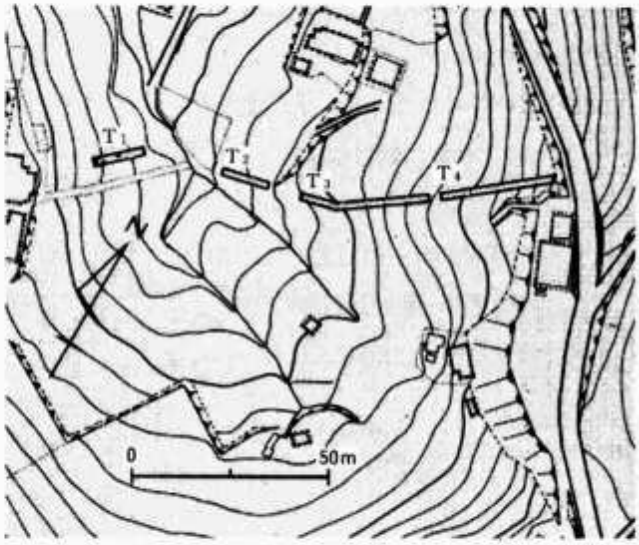
主要地方道盛岡岩泉線の改良道路工事に関連し、県土木部盛岡土木事務所の依頼を受け、平成２年２月12日に試掘調査を実施した。

今年度の調査は、取り付け道路敷設部分の一部に限定されており、本格的な試掘調査は、平成２年度に実施する予定である。

当該遺跡は、標高約170～180mの丘陵緩斜面に立地しており、現況は果樹園となっている。

第24図に示すとおり、T_1～T_4の４本のトレンチを設定して調査を実施した。南西向き斜面にあたるT_1～T_3からは、遺構・遺物とも発見されなかったが、北東向き斜面に設定したT_4からは、溝１条と２基のピットが検出され、縄文時代中期と考えられる土器片が２点出土している。

第23図　稲荷窪遺跡位置図



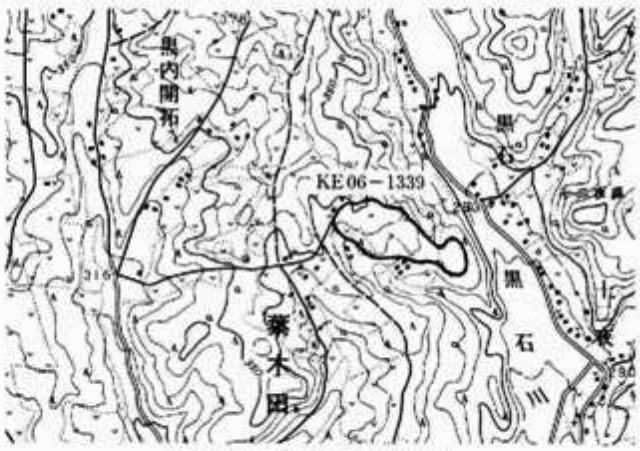
第24図　稲荷窪遺跡トレンチ配置図

5．岩沢遺跡（ＫＥ06—1339）

所在地　岩手郡岩手町大字一方井第１地割字御嶽

広域農道岩手地区の整備事業に関連し、盛岡地方振興局岩手北部土地改良事業所より依頼を受け、平成元年12月15・16日に試掘調査を実施した。

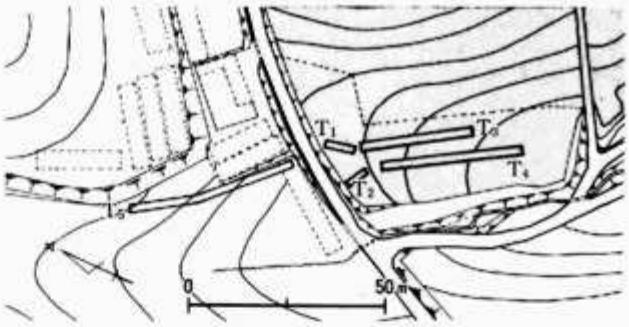
当該遺跡は、一方井川の支流である黒内川と黒石川とに挟まれた



第25図　下岩沢遺跡位置図

丘陵上に立地し、標高約330～350mを計る。

今回の調査区は、遺跡の南西端にあたる谷状の地形となっており、第26図に示すとおり、T_1～T_5の5本のトレンチを設立して調査を実施した。



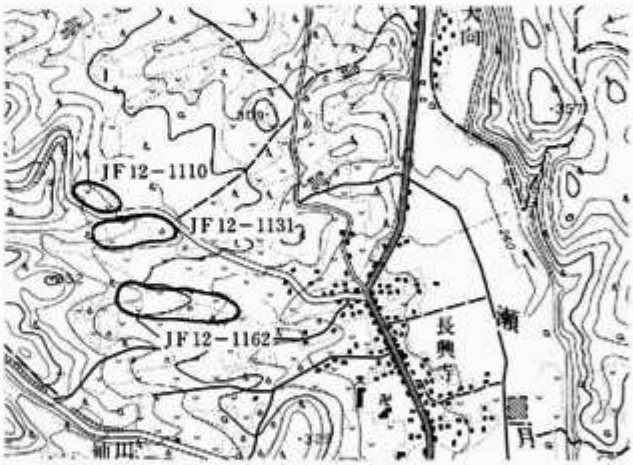
第26図　岩沢遺跡トレンチ配置図

T_1・T_3では、層厚1mを越える黒褐色土の堆積がみられ、土層中位に、十和田a火山灰がブロック状に検出された。その下層は青灰色粘土層、礫層となっており、T_1・T_3は谷の最深部にあたるものと考えられる。T_2・T_4には地山となる黄褐色火山灰土は検出されたものの遺構・遺物とも発見されなかった。なお、遺跡推定地外にもT_5を設定したがT_2・T_4と同様の状況が確認された。

6．大道端Ⅰ遺跡（JF12—1162）・松村沢Ⅰ遺跡（JF12—1110）・松村沢Ⅲ遺跡（JF12—1132）

所在地　九戸郡九戸村長興寺字大道端・松村沢

広域農道江刺家地区整備事業に関連し、二戸地方振興局二戸土地改良事業所に依頼され、大道端Ⅰ遺跡は平成元年9月4～6日、松村沢Ⅰ遺跡は9月27日、松村沢Ⅲ遺跡は6月26～27日に試掘調査を実施した。

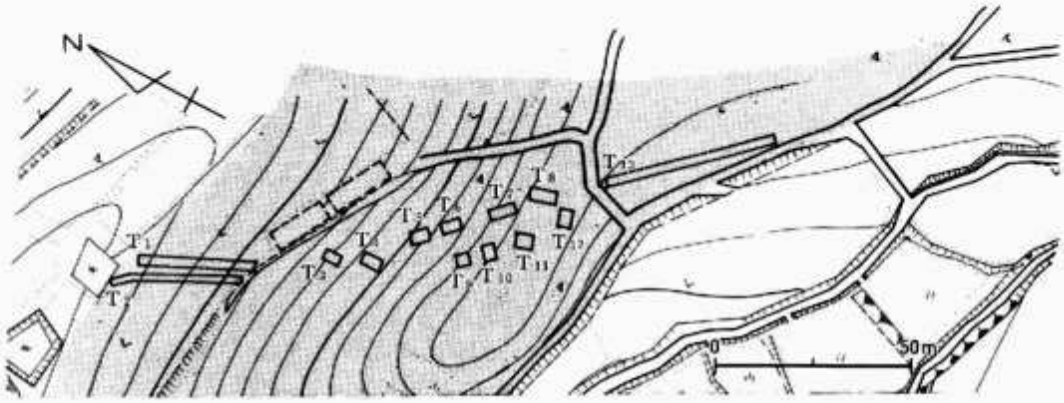


第27図　遺跡位置図

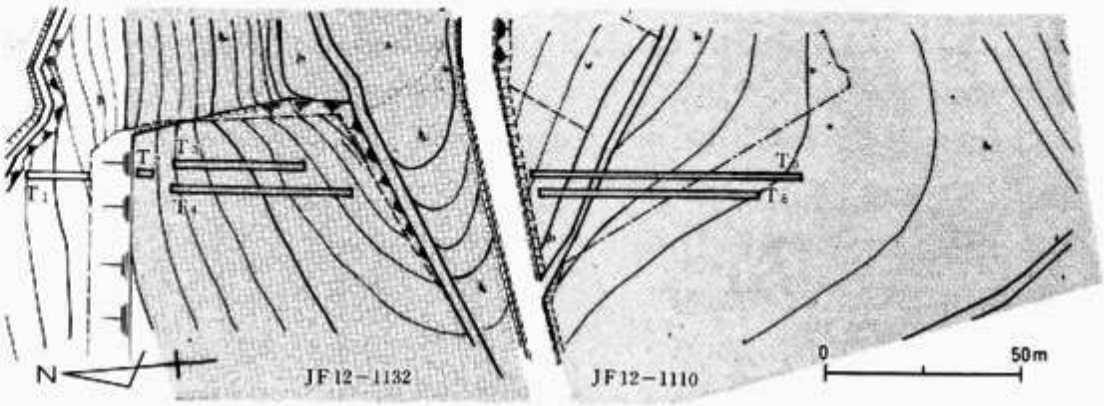
大道端Ⅰ遺跡は、現況が標高約290～310mの山林となっており、根を避ける形で、第28－1図に示すとおり、T_1～T_{13}の13本のトレンチを設定して調査した。いずれのトレンチからも遺構・遺物とも発見されておらず、遺跡の中心部は、西に延びる丘陵上にあるものと考えられる。

松村沢Ⅰ遺跡は、標高約310～320mの丘陵、南向き緩斜面に立地しており、第28－2図と示すとおり、T_1・T_2の2本のトレンチを設定して調査した。50～80mの厚い黒褐色Ⅰ層の堆積がみられ、ブロック状の十和田a火山灰が確認されたが、遺構等は検出されなかった。

松村沢Ⅲ遺跡は、標高約310～320mの丘陵上にあり、現況は果樹園となっている。T_1～T_4の4本のトレンチを設定して調査し、T_2・T_3から摩滅した縄文土器片3片が発見されたが、遺構は検出されなかった。



第28－１図　大道端Ⅰ遺跡トレンチ配置図



第28－２図　松村沢Ⅰ・松村沢Ⅱ遺跡トレンチ配置図

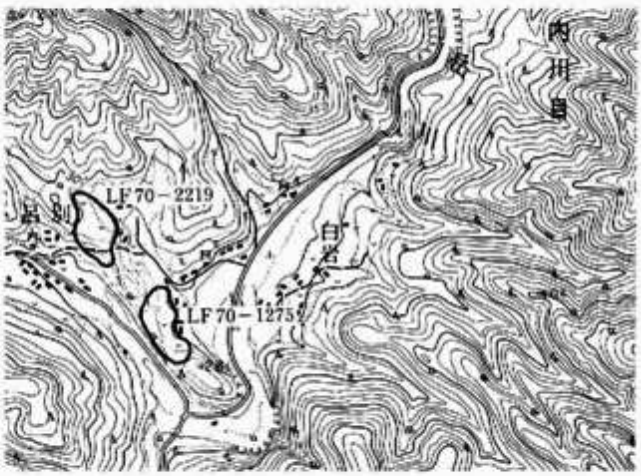
７．経塚森遺跡（ＬＦ70—1275）・経塚長根遺跡（ＬＦ70—2219）

所在地　稗貫郡大迫町内川目

県営落合ダム建設工事に関連し、県落合ダム建設事務所の依頼を受け11月２０日～22日に試掘調査を実施した。

両遺跡とも岳川の右岸に位置し、丘陵先端の緩斜面上に立地する。標高は、経塚森遺跡で約270m、経塚長根遺跡で約260～270m である。

経塚森遺跡では、第30—１図に示した通り T_1～T_{15} のトレンチを設

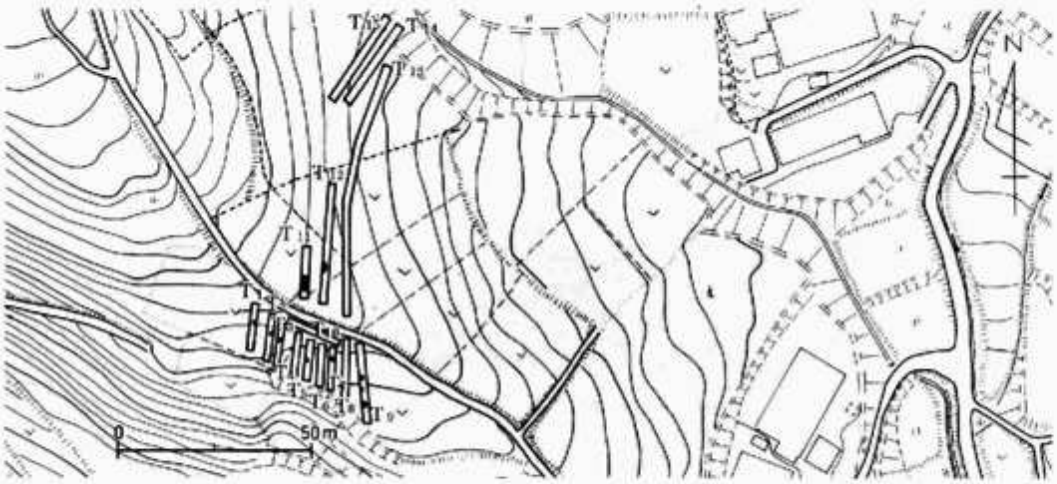


第29図　遺跡位置図

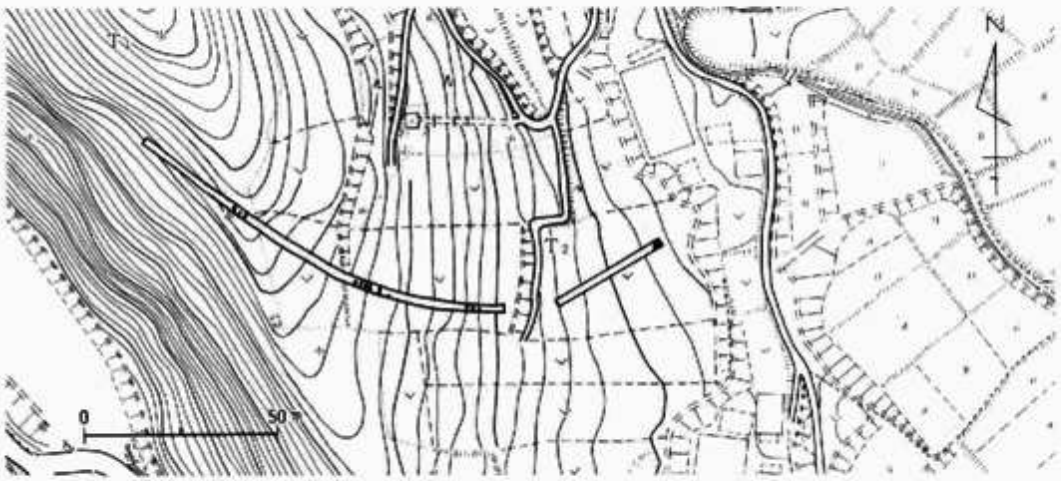
定し調査を実施した。表土（耕作土）は、小角礫を含む褐色土で10～30cmで黄褐色の地山に至る。T_1・T_2・T_3・T_5・T_7・T_9の南側斜面において、直径80cm～150cmの円形ピット８基が検出された。ピット内より、弥生式土器数片が出土した。また、T_{11}・T_{12}より円形を呈する竪穴住居跡が、２棟確認された。竪穴住居跡周辺より縄文時代中期の土器数片が出土した。

経塚長根遺跡では、第30－２図に示した通りT_1・T_2のトレンチ設定し調査を行なった。東向き斜面の上位に位置するT_1において、陥し穴状遺構11基が検出された。いずれも長軸が斜面と直交する方向に認められた。また、斜面の緩い下位のT_2において、縄文時代の竪穴住居址が１棟検出された。黒色土の堆積が厚く、黒色～暗褐色土中に竪穴が掘り込まれている。

両遺跡とも平成２年度に発掘調査を実施する予定である。



第30－１図　経塚森遺跡トレンチ配置図



第30－２図　経塚長根遺跡トレンチ配置図

8．**県営ほ場整備**［赤石第１地区］（第11図参照）

ＬＥ87—0126（位置図：第11図　参照）

県営ほ場整備事業関連遺跡については、県農政部の関係機関との協議において次のような事項を原則として調査を実施した。第１に遺跡は、出来るだけ事業区から除外すること。第２に遺跡の範囲が不明瞭なもの或は工事その他の関係で工事区に入る遺跡については、試掘調査を実施すること。第３に試掘調査の結果、遺構・遺物等が検出された場合工法等の変更によって遺跡の保存に努めること、第４に設計上どうしても掘削せざるを得ないものについてのみ発掘調査を行うこと。

ＬＥ87—0126　所在地・紫波町犬渕字西田

遺跡は、滝名川沿いの標高約90mほどの段丘縁辺部に立地する。開田による地形の改変を受け遺跡の範囲が不明確であった。第31図に示した通り、T_1～T_{33}までトレンチを設定し調査を実施した。耕作土下は、黒褐色土をのせる部分とすぐ地山の褐色火山灰土がみられる個所とが認められる。T_{13}・T_{15}・T_{16}・T_{17}・T_{32}において、方形の竪穴住居址が、計８棟検出された。竪穴住居址付近から、ロクロ使用の土師器が出土していることから、これらは、平安時代の集落であると推定される。このほかT_{20}・T_{21}・T_{32}において陥し穴状遺構、T_{24}・T_{25}・T_{26}・T_{33}では円形のピットが検出されている。縄文時代の土器片数点も出土していることから縄文時代の遺構も残されていると考えられる。この遺跡は、まだまだ多くの遺構が残されていると考えられることから、数十センチの土盛りを行った後ほ場整備を行うこととした。

ＬＥ87—2197　所在地・紫波町犬渕字西田

遺跡は、ＬＥ87—0126と同様の立地であるが、間に開析谷が認められることから別遺跡としたものである。第32図に示した通り、T_1～T_{11}までトレンチを設定し調査を実施した。水田面下には暗褐色の堆積がみられその下に地山の褐色土がある。T_1・T_3・T_4において方形の竪穴住居４棟が検出された。竪穴住居内よりロクロ使用の土師器が出土している。ＬＥ87—0126と同様滝名川沿いの縁辺に広がる平安時代の大集落と考えられる。この他T_4・T_6・T_{10}において、陥し穴状遺構が検出されたし、T_{11}で竪穴住居状遺構が検出された。遺構の大半は、土盛りを行い保存することとなったが、道路及び水路のため設計変更出来ないT_6・T_{10}・T_{11}の遺構については調査を実施した。

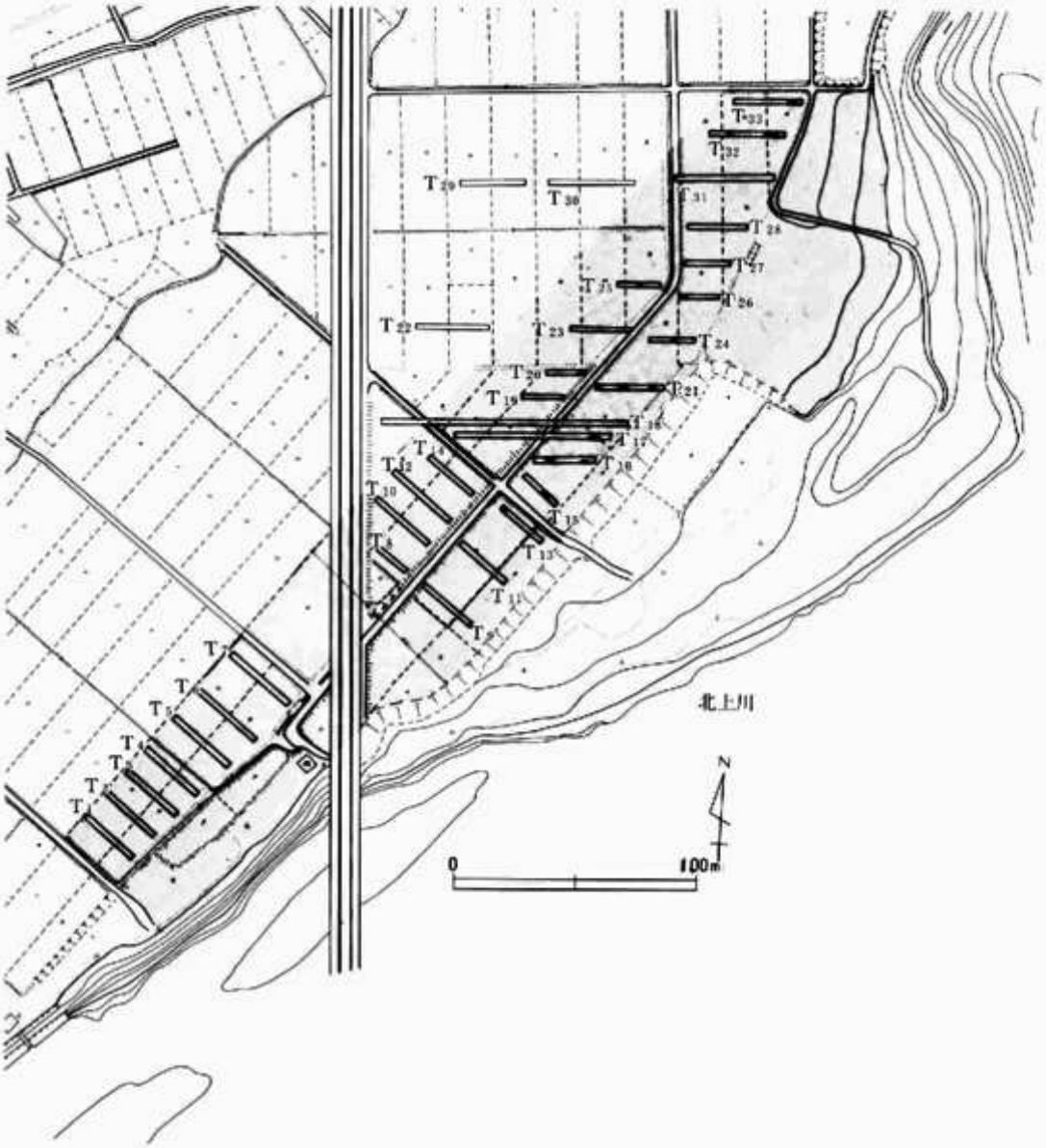
陥し穴状遺構は、５基検出されている。主軸方向は、それぞれやや異るが北西—南東方向のものが多い。長さは、上場が３ m～3.9m、幅は30～50cmを計る。すべて褐色の地山層を切り込んで掘られており、浅いもので確認面より58cm、深いもので120cmを計る。

竪穴住居状遺構は、直径2.6～2.8mのややいびつな円形を呈する。遺構確認面からの深さは、約60cmを計る。床面上にはやや偏平な30cm～50cmの礫と小亜角礫が置かれている。埋土の大半

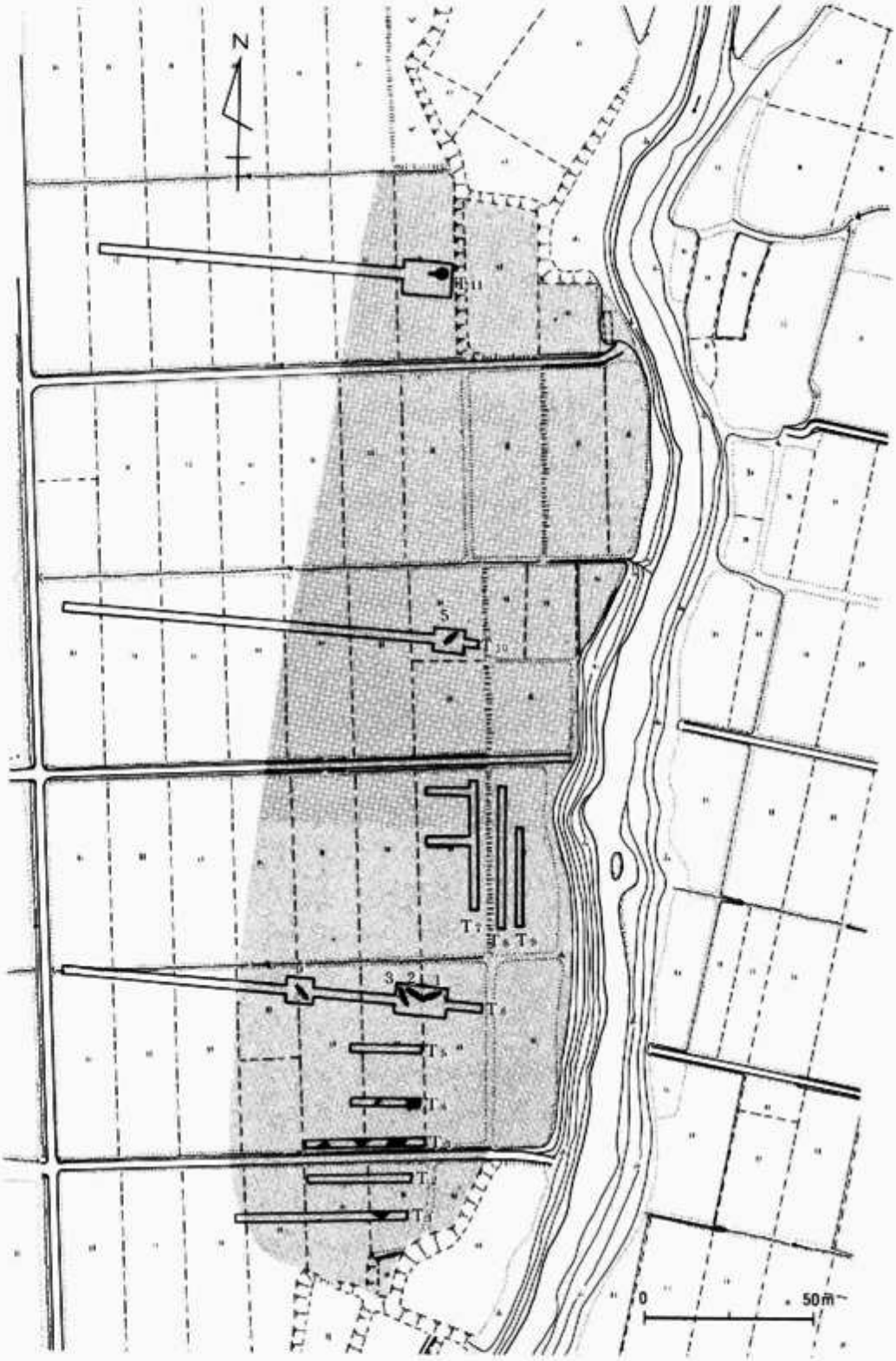
は、地山層と同様のシルト質褐色土であり、一時期に埋め戻されたと考えられる。深20cmほどの溝を切り込んで掘られている。性格や時期については不明である。

LE87—2172　所在地・紫波町犬渕字西田

縄文時代中期の大集落として著名な西田遺跡の一部である。西田遺跡の大半は、丘陵上に立地するが、今回の調査区はその先端にはりつく段丘上にある。幅約60m、深さ約25cmの溝が検出された。埋土に白色火山灰をもつことから、平安期の溝と考えられる。この他溝の下に陥し穴状遺構が1基検出された。

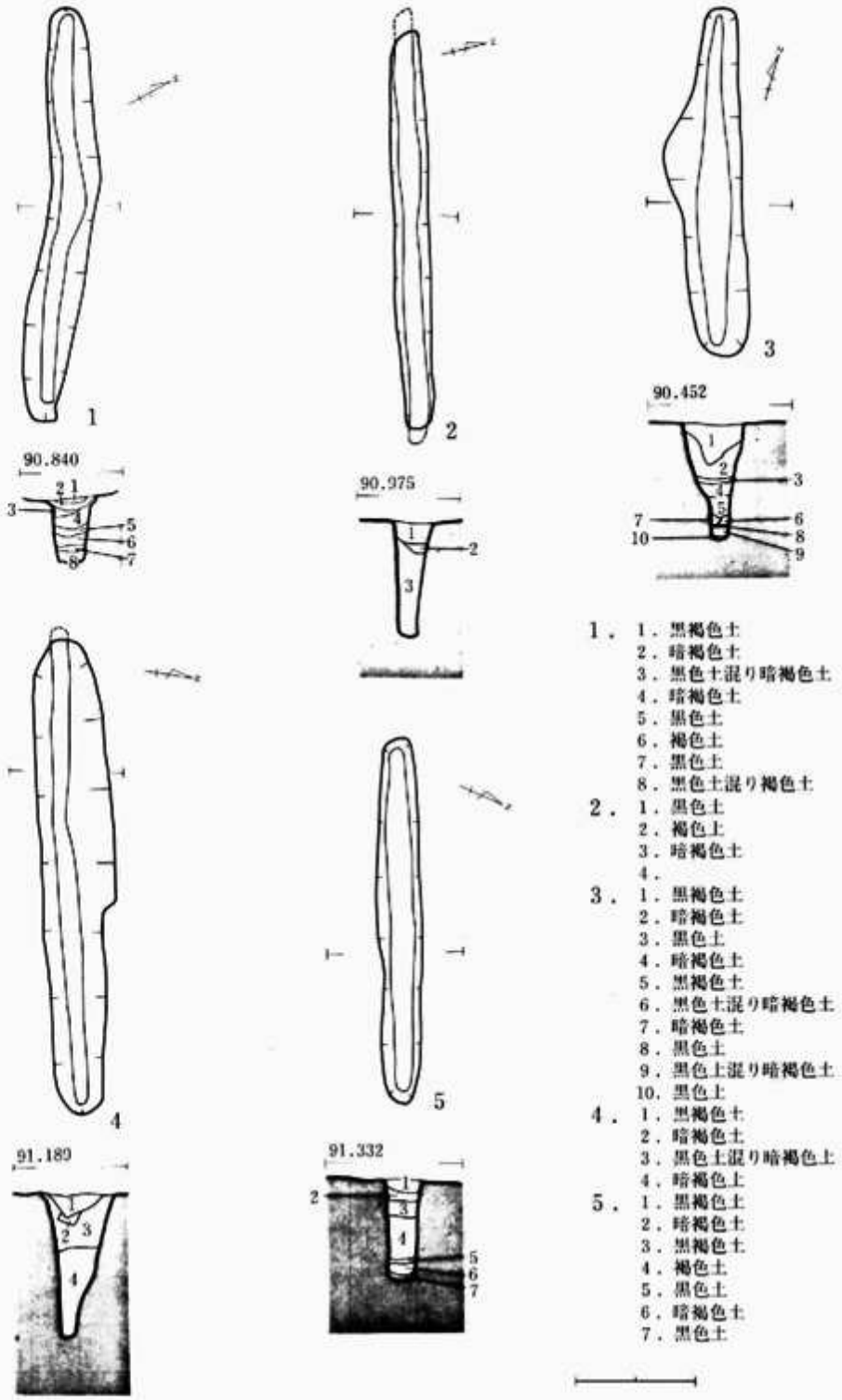


第31図　LE87—0126トレンチ配置図



第32図　LE87−2197トレンチ配置図

第33図　LE87—2172トレンチ配置図



1．1．黒褐色土
2．暗褐色土
3．黒色土混り暗褐色土
4．暗褐色土
5．黒色土
6．褐色土
7．黒色土
8．黒色土混り褐色土

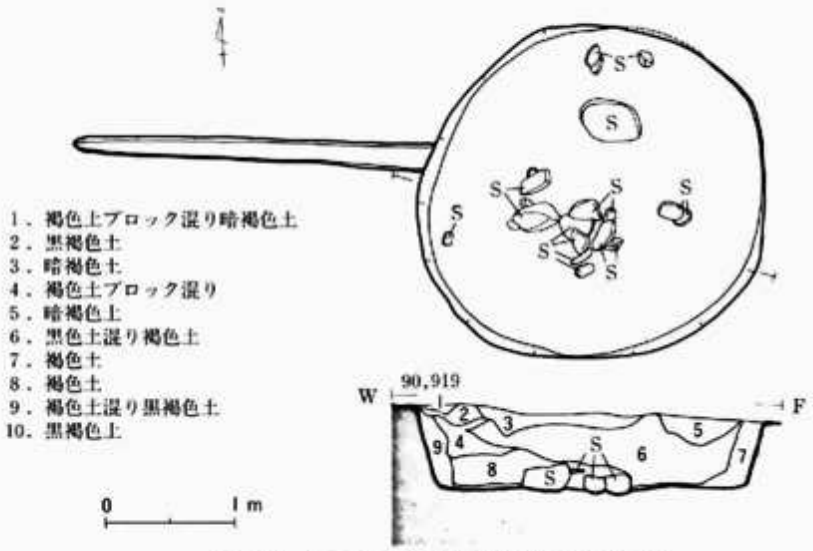
2．1．黒色土
2．褐色土
3．暗褐色土
4．

3．1．黒褐色土
2．暗褐色土
3．黒色土
4．暗褐色土
5．黒褐色土
6．黒色土混り暗褐色土
7．暗褐色土
8．黒色土
9．黒色土混り暗褐色土
10．黒色土

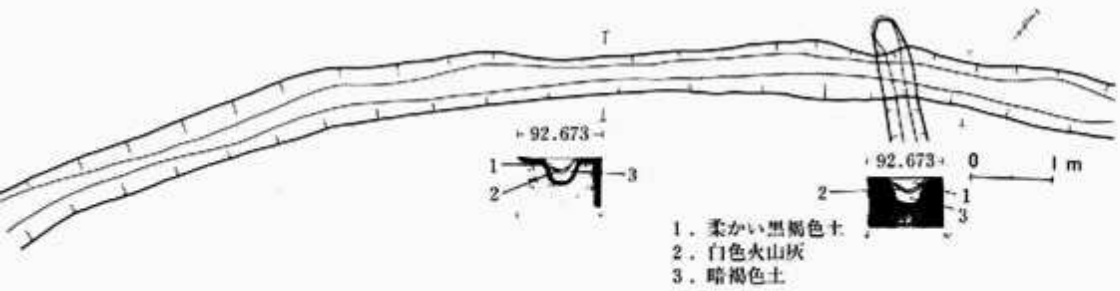
4．1．黒褐色土
2．暗褐色土
3．黒色土混り暗褐色土
4．暗褐色土

5．1．黒褐色土
2．暗褐色土
3．黒褐色土
4．褐色土
5．黒色土
6．暗褐色土
7．黒色土

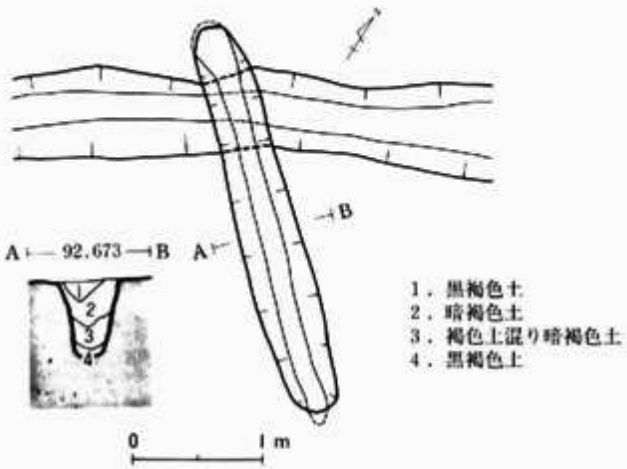
第34図　LE77—2197陥し穴状遺構平・断面図



第35図　ＬＥ77—2197竪穴状遺構平・断面図



第36図　ＬＥ87—2172溝跡平・断面図



第37図　ＬＥ87—2172陥し穴状遺構平・断面図

9．**県営ほ場整備事業**［赤石第２地区］（第12図参照）

ＬＥ66－2291（平沢野田Ⅰ遺跡）　所在地・紫波町平沢字野田

遺跡は、周囲を新しい開析によって区切られた標高約120m前後の平坦な段丘上に立地する。試掘調査は、８月29日から９月１日にかけて実施された。第38図に示した通り、T_1～T_{30}までのトレンチを設定し、調査を行った。遺跡の西側は、畑地及び水田となっており、南向き緩斜面のT_{15}～T_{17}において直径１cm前後の円形ピット数基が確認された。ピット周辺から縄文土器数片が出土していることから縄文時代の遺構と考えられる。またT_5・T_6においても円形ピットが確認されているが、T_5のピットに白色火山灰の薄い層が認められることから平安時代の遺構と考えられる。遺跡の東端に位置するT_{28}において方形の竪穴住居址２棟が検出されており、併せて平安時代の土師器数片も出土した。平安期の集落は、T_{28}の北西及び南東方向に広がっていると想定されることから、事業区から除外してもらうこととした、なお、T_5・T_{15}周辺については、土盛りを行い遺構を保存することとした。

ＬＥ76－0200（平沢野田Ⅱ遺跡）　所在地・紫波町平沢野田

遺跡は、ＬＥ66－22091の開析谷を挟んだ南側にある。遺跡の東端の一部だけが調査対象区になったため、第38図に示した３箇所にトレンチを入れて調査を実施した。表土（耕作土）下はすぐ褐色土の地山層となっているが、トレンチ内では、遺構・遺物とも検出されなかった。

ＬＥ76－0253　所在地・紫波町北日詰字外谷地

遺跡は、標高115m前後微高地にあると推定された。分布調査において畑地内より土師器の小片が採集されたが、範囲が不明瞭なため、９月１日に試掘調査を実施した。第39図に示した通りT_1～T_{12}にトレンチを入れた。T_1において昔褐色の地山層の上に暗褐色の薄い堆積がみられたが、他のトレンチにおいては、水田及び畑地の耕作土下は、黄褐色の地山層に至る。しかも重機の痕跡なども残されており、かなり地形の改変が行なわれたものと考えられる。どのトレンチからも、遺構・遺物とも検出されなかった。

第38図　ＬＥ66—2291・ＬＥ76—0200トレンチ配置図

第39図　ＬＥ76—0253トレンチ配置図

10. 県営ほ場整備事業［矢巾太田地区］（第13図参照）

ＬＥ56—0189（太田Ⅷ遺跡）　所在地・矢巾町第５地割谷地館

遺跡は、標高115m前後の微高地に在り、南端を小規模な沢で区切られている。現状は畑地及び水田となっているが、畑地に土師器片の散布が目立った。遺跡の西側を中心に、第40図に示した通り T_1～T_{15} までトレンチを設定し、調査を実施した。その結果 T_6・T_8・T_{12}・T_{13}・T_{14}・T_{15} において、方形の竪穴住居址が計６棟確認された。耕作土下は、黄褐色の粘土質の地山がみられるが、いずれの竪穴住居も地山層を掘り込んでいた。竪穴住居内及び周辺からロクロ糸切りの土師器片及び須恵器片などが出土しており、当該遺跡は、かなりのまとまりをもった平安時代の集落と考えられる。遺構の検出された周辺については、数十センチの土盛りをして保存することとし、トレンチ設定区外については、事業対象区から除外することとした。

第40図　ＬＥ56―0189トレンチ配置図

11．**県営ほ場整備事業**［上平沢地区］（第13図参照）

ＬＥ65－1222　所在地・紫波町升沢

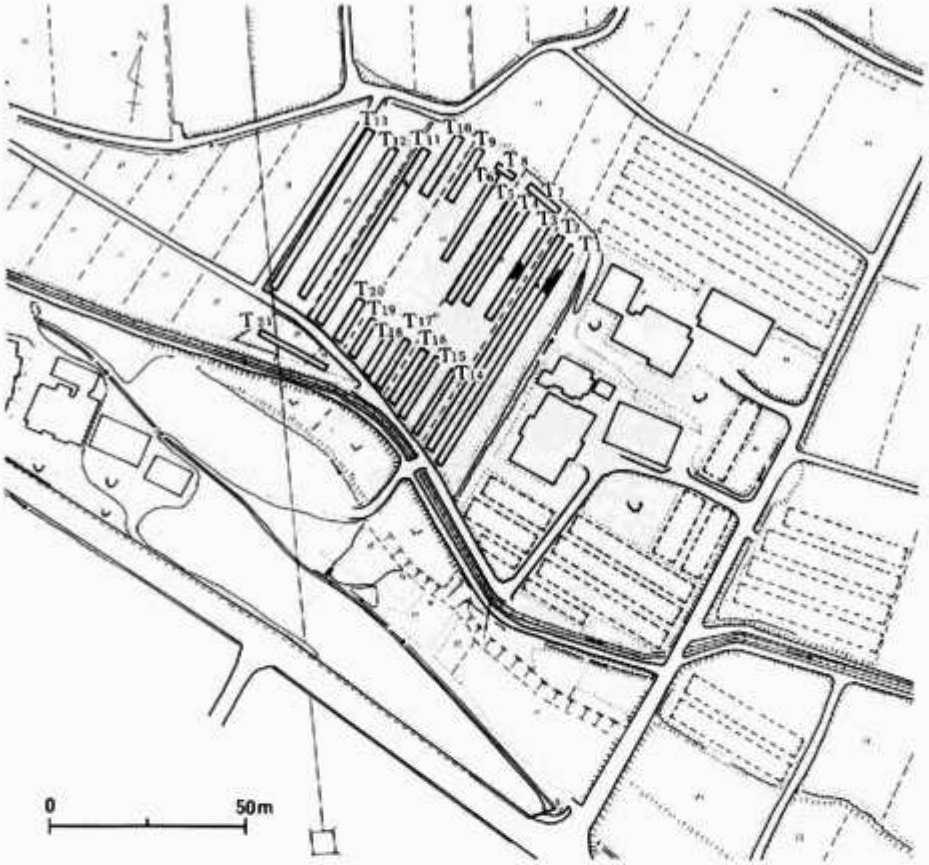
遺跡は、滝名川の北岸に位置し、標高約162mほどの低位段丘（花巻段丘）上に立地する。10月24日～27日に試掘調査を実施した。第41図に示した通りT_1～T_{21}までのトレンチを設定し、調査を行なった。遺跡の西側においては、耕作土（水田）の下は礫層、底は薄い褐色土が部分的にみられ、遺構・遺物とも検出されなかった。しかし、T_1・T_2の北半分及びT_3・T_4付近においては耕作土の下に暗褐色及び褐色土層の堆積がみられた。T_1において、褐色土を掘り込んだ方形の竪穴住居址が検出され、検出面から須恵器甕の破片が出土した。また、T_3においては、同じく褐色土を切り込んだ円形の竪穴状の遺構が確認された。周辺地域の暗褐色土層下位より縄文土器の破片が出土しており、縄文時代の竪穴住居址の可能性がある。従って、縄文時代及び平安時代の集落がT_1より東に広がっていると考えられる。T_1・T_3の遺構周辺については、工法上の設計変更により、保存することとなった。

ＬＥ65－1213　所在地・紫波町升沢字田中

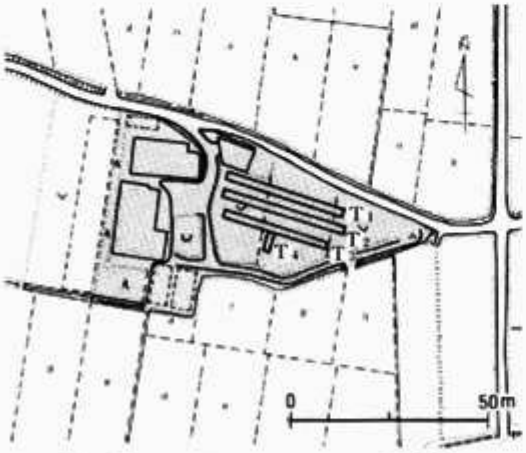
遺跡は、ＬＥ65－1222の東側にあり、標高約159mほどの低位段丘（花巻段丘）上に立地している。分布調査において土師器小片を採集したが、土地の改変などを受けた可能性もあり、遺跡の範囲を明確に出来なかったものである。10月30日に試掘調査を実施した。第42図に示した通りT_1～T_4のトレンチを調査した。調査地の現状は畑地であったが、耕作土（暗褐色土）の下は、人頭大の円礫を主とする礫層であった。遺構・遺物とも検出されなかった。

ＬＥ65－1218　所在地・紫波町上平沢

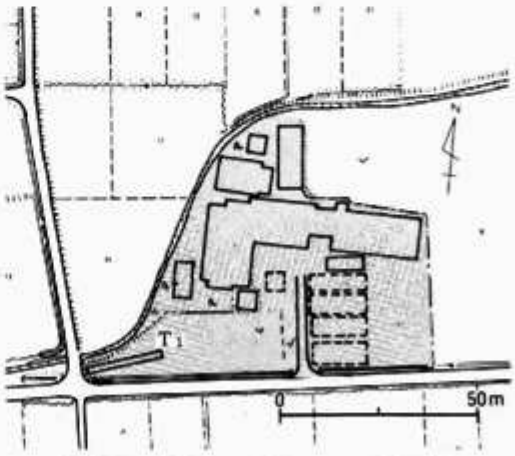
遺跡は、滝名川の北岸にあり、標高約152mの低位段丘上に立地する。調査は10月30日に試掘調査を実施した。調査区は、第43図に示した通り遺跡の南東端にあり、周囲に比べ一段低くなっている個所である。現状は、水田となっており、水田の下は、青灰色粘土層及びその下に礫層の堆積がみられ、遺構・遺物とも検出されなかった。



第41図　LE65—1222トレンチ配置図



第42図　LE65—1213トレンチ配置図



第43図　LE65—1218トレンチ配置図

12. 県営ほ場整備事業［西郷地区］（第14図参照）

ＬＥ56－0325（白沢Ⅱ遺跡）　所在地・矢巾町白沢第４地割

遺跡は、標高110～112mの低位段丘（花巻段丘）上にあり、周囲は、新しい開析による低地に囲まれている。遺跡はかなり広範囲になっているため、試掘調査を実施した。第44図に示した通りT_1～T_{54}まで広くトレンチを設定し調査を行なった。地形状は、ほぼ同一にみえるが調査地点によってかなり異る。南東端のT_1・T_2付近においては、耕作土（黒褐色）下のシルト質褐色土の堆積が薄く礫層に至る。同様の層位は、西端でもみられた。中央部においては、シルト質褐色土の堆積が厚い。

調査の結果、T_{21}・T_{24}・T_{46}において方形の竪穴住居址が３棟確認されており、周辺部にも広がりをもっていると推定される。竪穴住居址付近からは、ロクロ糸切り痕のもつ土師器坏の破片及び甕の体部等の土器が出土した。また、T_{12}～T_{14}トレンチにおいては、溝跡が検出されているが周辺部から比較的土師器片が多く出土していることから平安期に関連する溝とも考えられる。更にT_{38}トレンチにおいて、古墳の周溝とも推定される溝（円形周溝）が確認された。T_{28}・T_{43}トレンチにおいては、陥し穴状遺構が２基検出された。T_{28}とT_{43}の陥し穴状遺構については、水路予定地であり設計変更等により除外できず調査を実施したが、他のすべての遺構については、土盛等を行ったうえで工事を行うこととし、遺構の保存をはかった。

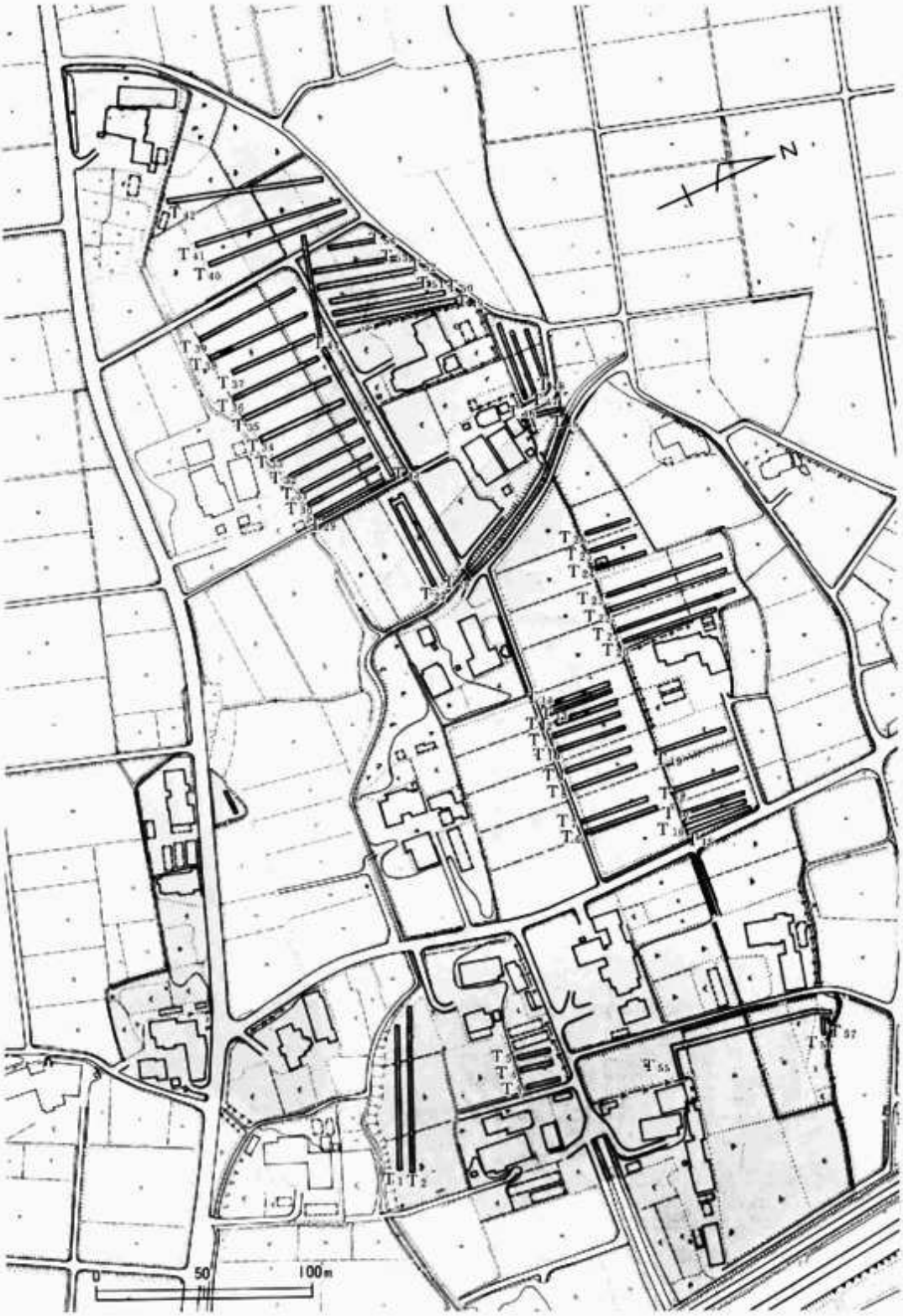
T_{43}の陥し穴状遺構（第47図－１）は、長軸29.0cm、幅35cmほどで、東西方向に軸をもつ。一方T_{28}の陥し穴状遺構（第47図－２）は、長軸360cm・幅55cmほどで前者より大きい。しかしいずれの陥し穴も遺構確認面からの深さが45cmほどと一般にみられる陥し穴状遺構に比べやや浅いことから、もしかするとこの周辺は、シルト質褐色土が削平されているのかもしれない。

ＬＥ56－0344（白沢Ⅲ遺跡）　所在地・矢巾町白沢第４地割

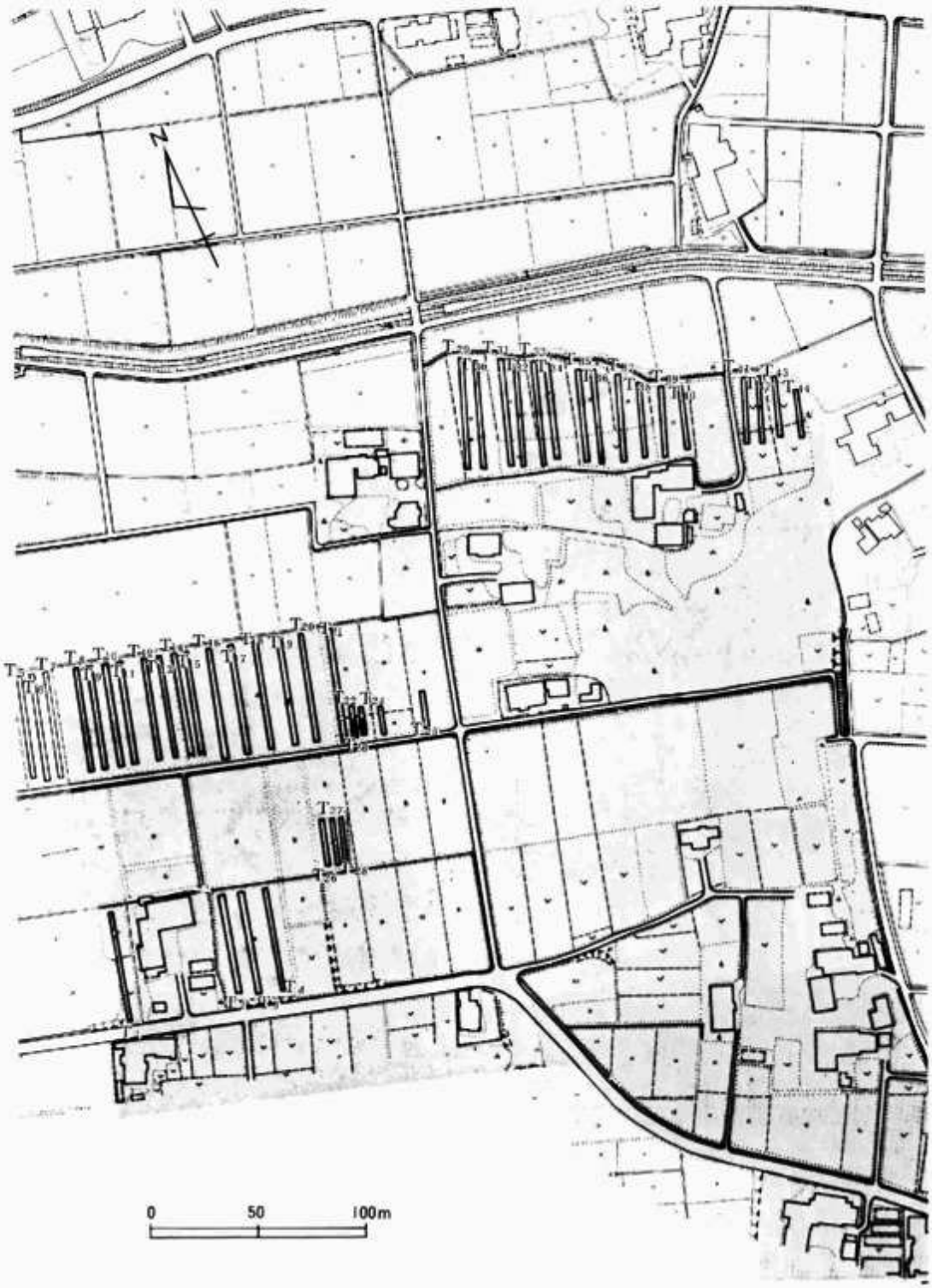
遺跡は、ＬＥ56－0325と小さな開析低地を挟んで標高は、109mで低位段丘上に立地する。調査は、第44図に示した通り、北西端の一部だけ行った。耕作土（畑）のすぐ下がシルト質褐色土となっており、それを掘り込んだ方形を呈する竪穴住居址を検出し、土師器片の出土もみられた。この遺跡については、工事区から除外することとなった。

ＬＥ56－0361（羽下遺跡）　所在地・矢巾町白沢第13地割羽下

遺跡は、東側に広がる沖積地と西部地域に広がる段丘の境いにあり、標高約110mの低位段丘の西端に位置する。遺跡は、広範囲にわたると推定されるが、特に西辺については、範囲を明確に出来なかった。特に南半分の段丘縁については、土師器の分布が極めて濃密であり、出来るだけ事業区から除外してもらうこととした。第45図に示した通り、西辺及び北辺を中心にトレンチを設定し、調査を実施した。



第44図　LE56—0325・LE56—0344トレンチ配置図

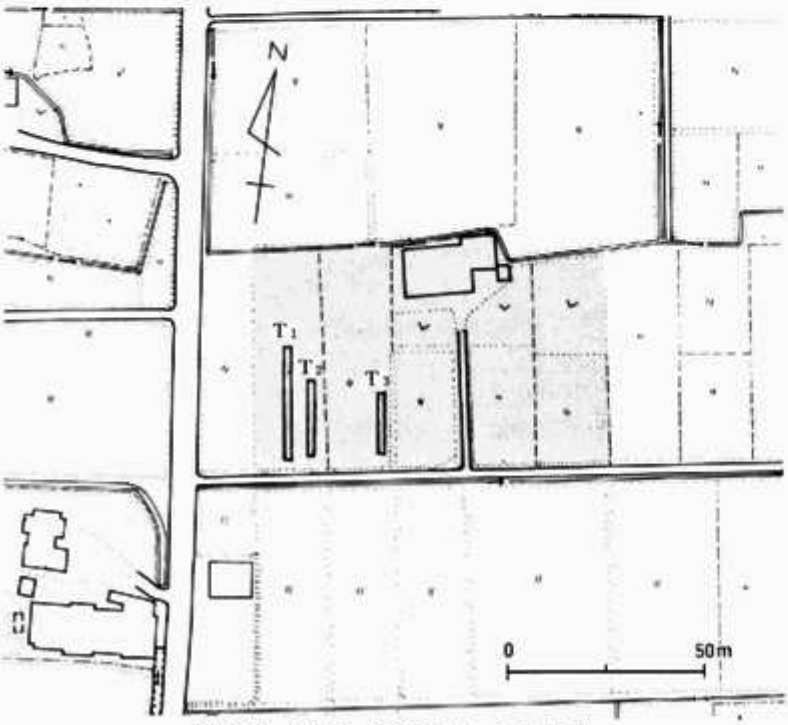


第45図　LE56—0361トレンチ配置図

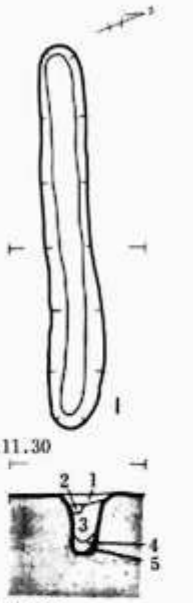
T_8～T_{15}の西側においては、暗褐色土の堆積も厚く、東に向うほど暗褐色土がうすくなる傾向にあり、耕作土下がすぐシルト質褐色土となる個所もみられた。遺跡の北側は、大白沢川が流れ、北方向に向っても暗褐色土が厚くなる傾向にある。T_{22}・T_{23}において、方形の竪穴住居址が検出された。確認面から土師器の小破片が出土している。この地点から、東方及び南東方向に集落が広がっているものと推定される。また、T_{19}において陥し穴状遺構が検出されている。これらの遺構周辺については、工法を変更することにより保存することとなった。

LE56—0361(白沢Ⅶ遺跡)　所在地・矢巾町白沢第12地割川久保

遺跡は、標高113mほどの低位段丘上にあるが、範囲が明確でなかったため試掘調査を行うこととした。第46に示した通りT_1～T_3を入れ調査を実施した。いずれのトレンチにおいても、耕作土（水田）の下は、青灰色粘土層と北寄りにおいて砂礫層が検出された。従って、当遺跡周辺は現在平坦面となっているが、土地の改変を受けたものであることが判明した。今後、地点ごとの柱状図等を作成する必要があると考えられる。



第46図　LE56—0248トレンチ配置図



第47図　LE56—0325
陥し穴状遺構平・断面図

13．県営ほ場整備事業［本宮地区］　所在地・盛岡市本宮野古・北

LE16—2170（野古B遺跡）（位置図：第16図2参照）

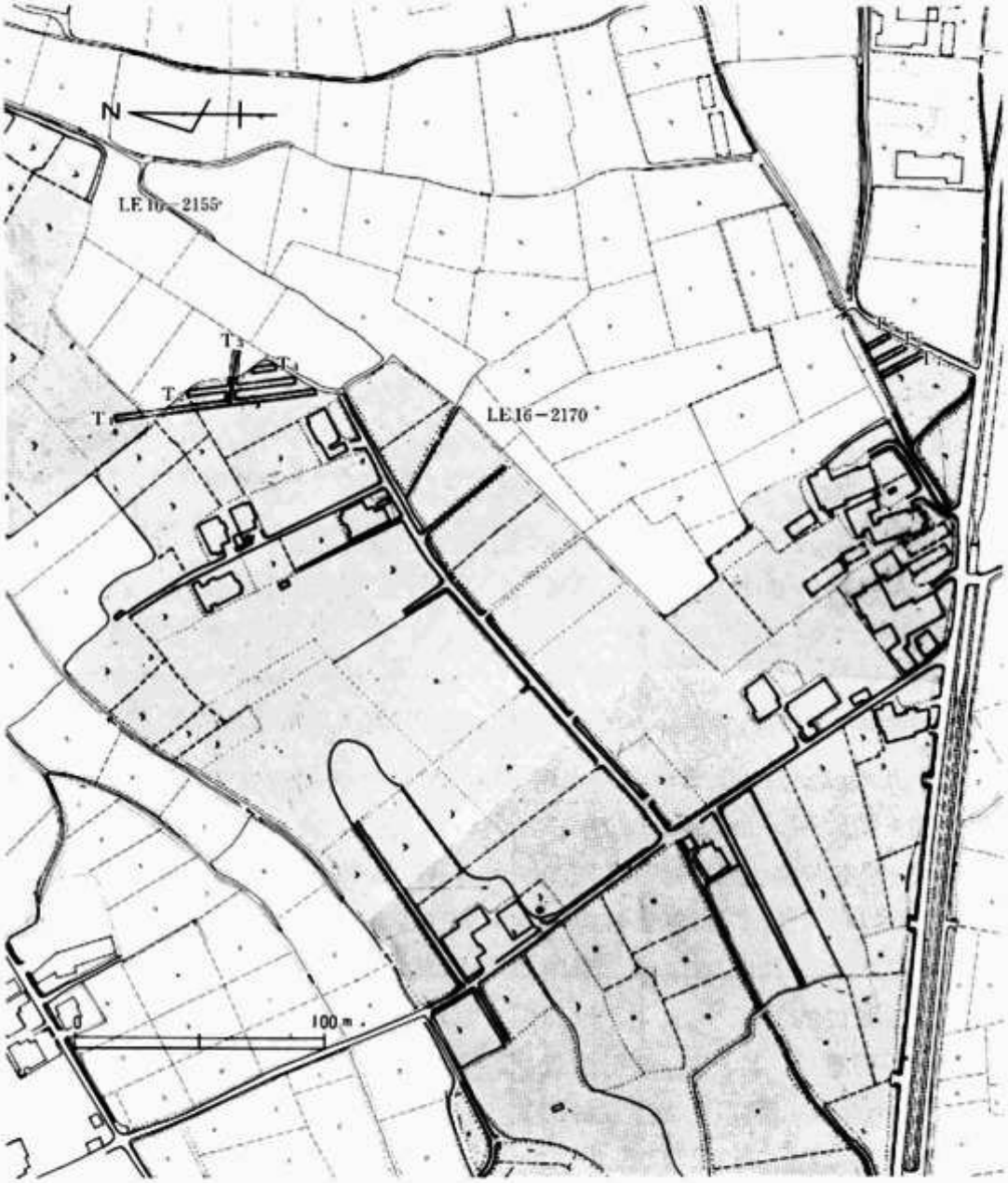
遺跡は、沖積平野上の標高126～127mの微高地に立地する。今回の試掘調査は、遺跡東端の区画の整理に伴う狭い範囲に限定されており、第48図に示したとおり、T_1～T_7の7本のトレンチを設定して調査した。その結果、T_3から東西方向に延びる溝跡が検出され、表土中からはロクロ使用土師器甕の体部細片が出土したが、その他のトレンチからは、遺構・遺物とも発見されていない。

溝跡は、表土下約40～50cmで検出されており、幅約80～110cm、深さ約15～25cmを計る。溝全長は、西端が調査区外に入るため不明であるが、現存長で21mとなる。所属時期については、埋土中から円礫以外の遺物が発見されなかったため不明である。

14．その他の事業に伴う試掘調査

13までに記した他に6事業に伴って試掘調査を実施した。ただし、これらは、遺跡かどうか不明なものであったり、遺跡範囲の不明瞭なもので調査範囲が極めて小規模なもので、遺構・遺物とも検出されなかった調査であったため、ここでまとめて記すこととした。

1．県営広域農道整備（事業者・盛岡地方振興局雫石土地改良事業所）に伴う雫石町・櫃石遺跡（LE33—0287）
2．県立公舎建築（事業者　岩手県教育委員会財務課）に伴う二戸市・八幡平遺跡
3．三陸縦貫自動車道山田道路建設（事業者　建設省三陸国道工事事務所）に伴う山田町・上村遺跡
4．三陸縦貫自動車道大船渡道路（事業者　建設省三陸国道工事事務所）に伴う大船渡市・細野II遺跡
5．県立一関工業高校校舎改築（事業者　岩手県教育委員会事務局財務課）に伴う一関市・釜渕遺跡
6．水沢インターチェンジ雪氷基地改良（事業者　日本道路公団江釣子管理事務所）に伴う調査
7．パンカーサイロ建築工事（事業者　岩手種畜牧場）に伴う調査



第48図　ＬＥ16—2170トレンチ配置図

1．黒褐色土
2．暗褐色土
3．黒褐色土
4．黄褐色土

第49図　ＬＥ16—2170溝跡平・断面図

15．黒石野平遺跡(KE96—2320)

所在地・盛岡市上田黒石野

(1) 調査に至る経過

昭和63年４月13日県土木部建築住宅課より、盛岡市内の県営住宅建設予定地内における埋蔵文化財に関する協議があった。４月14日に現地確認を実施した結果、新たな遺跡であることがわかり、盛岡市教育委員会と協議し黒石野平遺跡とした。５月２日と14日に試掘調査を実施した。

第50図　黒石野平遺跡位置図

その後調査結果に基づいて事業主体者である県住宅供給公社と協議を重ね、一部を現状保存地域とし、検出された遺構については、建築工事との係りで、昭和63年度と平成元年に調査を実施した。

(2) 試掘調査結果

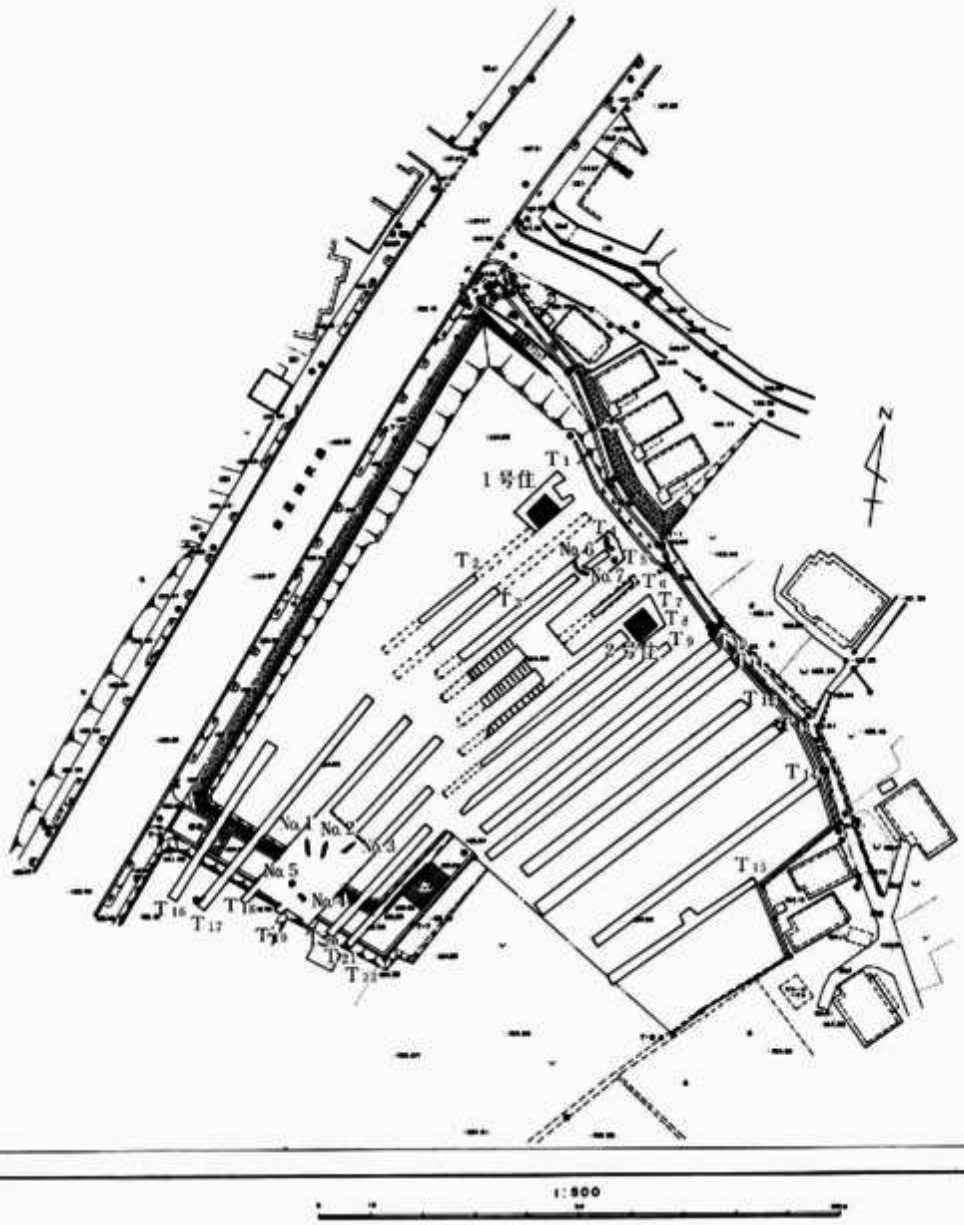
遺跡の東方には、黒石山（262）をはじめとする低い丘陵が広がり、西方には約600m で北上川が流れ沖積地が形成されている。遺跡は、丘陵の西側に発達した段丘上に立地している。北側は、開析谷によって区切られ、急な崖となっている。遺跡の標高は、161～164m であり、ほぼ平坦にみえるものの、僅かに東から西に向って緩やかな傾斜を示す。

第51図に示した通り、T_1～T_{22} までトレンチを設定し調査を実施した。調査は、重機(バックホー）を用いて、表土（耕作土）及びII層である黒色土を除去し、III層の褐色火山灰層の上面で遺構検出を行なった。

遺構は、西北寄りの T_1～T_8 に竪穴住居址をはじめとし、円形周溝他の遺構が集中して検出された。この地区は、遺跡の北辺りに位置している。また、遺物もこの地区に集中しており、縄文土器は、T_1 と T_2 の西壁にのみ出土していることから、T_1・T_2 の西方に縄文時代の遺構が残されていると想定される。

この他、T_8～T_{19} トレンチにおいて陥し穴状遺構とピットが集中して検出された。調査区の中では、南辺に位置している。ただし、同一の地形は、更に南にものびており、遺跡は同方向に更に広がりをもつのかもしれない。遺物は、まったく出土しなかった。

縄文土器の出土した T_1・T_2 の西側については、現状保存とすることとした。また建物の立つ個所については、図示したトレンチの他にダメ押し調査も実施したが、遺構・遺物とも検出されなかった。



第51図　トレンチ配置図

(3) 検出遺構

検出された遺構は、平安時代の竪穴住居址2棟、同時期と推定される円形周溝2基、縄文時代の陥し穴状遺構3基、フラスコピット2基、時期不明のピット3基である。

(a) 1号住居址

T_1 トレンチで検出された住居址である。検出は、III層の褐色火山灰層の上面で行なったが、掘込みは、II層の下位であったと思われる。住居址の中央部と南東壁を切るように幅80～140cmの近年の溝によって攪乱を受けている。

平面形は、一辺660cmを測るほぼ正方形を呈し、4角の対角線がほぼ南北と東西方向を示す。埋土は、3層に大別される。上部の2層は、基本層序のI層とII層から成る。全体に比較的大きい炭化物がみられ焼失家屋と考えられる。炭化物は壁際ほど高いレベルで検出されている。

床面は、ほぼ平坦であったが、特に堅く踏み締められた痕跡はみられなかった。壁は、ほぼ垂直の立ちあがりをもち、壁高は約40cmを測る。カマド部分を除き幅5～15cm、深さ8～15cmの周溝が巡らされている。

カマドは、南東壁の東コーナー寄りに構築されていたが、大半が攪乱により壊されていた。カマド周辺に10cm前後の亜角礫が散乱しており、カマドに使われていたものであろう。

柱穴は、2個検出されており、深さは55cmと60cmである。遺物の大半は、カマド周辺から出土したものである。鉄製品は、南隅の壁際から出土した。

(b) 2号住居址

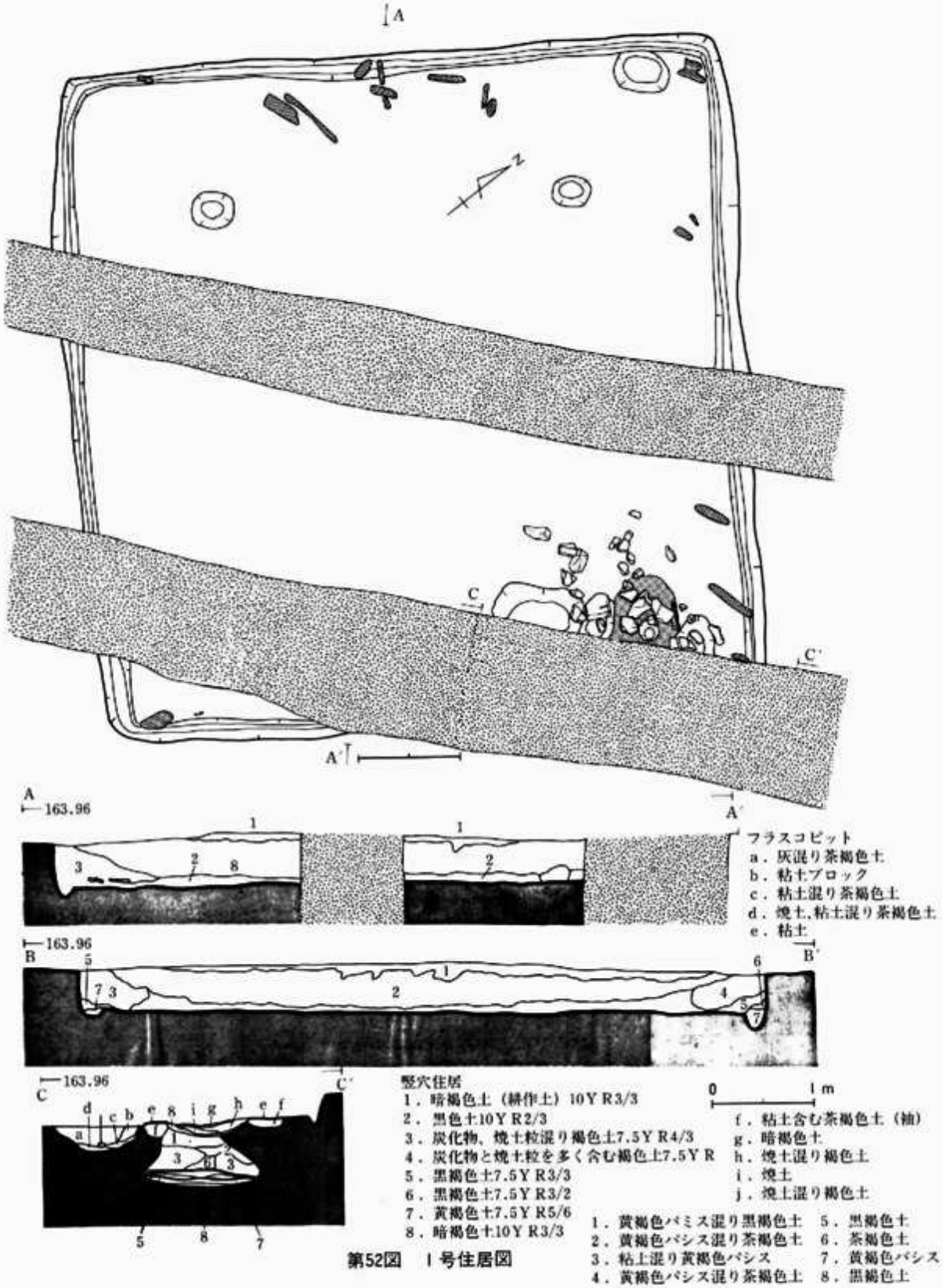
A_7 トレンチで検出された住居址である。検出は、1号住居址同様にIII層の褐色火山灰層の上面で行なった。

平面形は、一辺460cmを測るほぼ正方形を呈し、方向も1号住居址とほぼ同じである。埋土の大半は、暗褐色～黒色土であり、壁に近いほど褐色土の混りが多くなる。床面は、ほぼ平坦であり、カマド周辺が特に堅く踏み締められていた。住居のほぼ中央部に現地性の焼面がみられた。

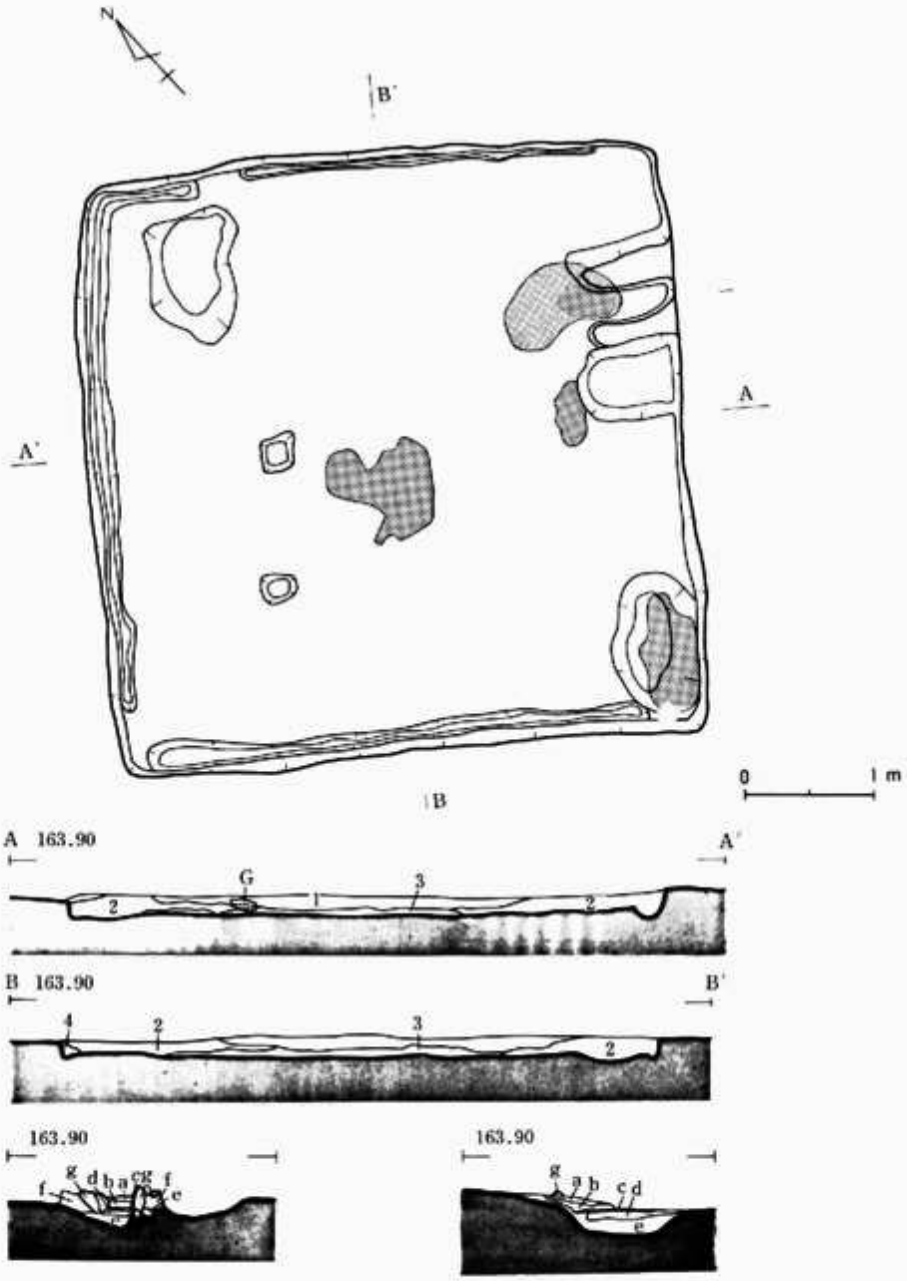
壁は、ほぼ垂直の立ち上がりをもつが、全体に掘り込みが浅く、壁高が10cm前後と小さい。周溝は、カマド部分、南東壁・東隅・西隅及び北東壁の一部で認められないが、他は10～20cm、深さ5～10cm前後の溝が巡らされている。

カマドは、南東壁の東隅寄りに構築されている。煙道は、確認されておらずすぐ立ち上るタイプの煙出をもっていたと考えられる。カマドの構築には10cm前後の亜角礫を使用していた。柱穴は、明確でない。

遺物は、カマド周辺が大半で、北隅のピットからは栗を主体とする炭化物が出土している。


A
A'
B
B'
C
C'
163.96
フラスコピット
a．灰混り茶褐色土
b．粘土ブロック
c．粘土混り茶褐色土
d．焼土,粘土混り茶褐色土
e．粘土
竪穴住居
1．暗褐色土（耕作土）10Y R3/3
2．黒色土10Y R2/3
3．炭化物、焼土粒混り褐色土7.5Y R4/3
4．炭化物と焼土粒を多く含む褐色土7.5Y R
5．黒褐色土7.5Y R3/3
6．黒褐色土7.5Y R3/2
7．黄褐色土7.5Y R5/6
8．暗褐色土10Y R3/3
0 1 m
f．粘土含む茶褐色土（袖）
g．暗褐色土
h．焼土混り褐色土
i．焼土
j．焼土混り褐色土
1．黄褐色パミス混り黒褐色土
2．黄褐色パシス混り茶褐色土
3．粘土混り黄褐色パシス
4．黄褐色パシス混り茶褐色土
5．黒褐色土
6．茶褐色土
7．黄褐色パシス
8．黒褐色土

第52図　1号住居図



1．黒色土10Y R2/1
2．炭化物と僅かな焼土を含む暗褐色土10Y R3/3
3．黄褐色土混り暗褐色土7.5Y R3/2
4．暗褐色土混り黄褐色土7.5Y R5/6

a．焼土混り黒色土
b．僅かに焼土含む黒色土
c．焼土
d．焼土を多く含むスコリア
e．黒色土混りスコリア

第53図　2号住居図

(c) 陥し穴状遺構他（第54図）

陥し穴遺構は、すべて溝状のもので、遺跡の南西寄りの T_{18}・T_{19} で集中して検出された。検出面は、Ⅲ層の褐色火山灰層の上面である。長軸方向は、いずれもほぼ南北方向にあるが、それぞれ僅かな軸の違いが認められる。

長軸は、310cm・335cm・340cmとほぼ同規模である。溝の底面は、5～10cmと狭く、No.2とNo.3の陥し穴状遺構は、長軸の両端が上面より奥に掘り込まれている。埋土の大半は、黒色土～暗褐色土である。断面形は、中位より下が細くなるY字形を呈する。深さは90～135cmを測る。

第54図－4に示したピットは、T_{19} トレンチで検出された。平面形は、角がやや丸味をもつ長方形を呈し、長軸が150cm・幅75cmを測る。深さは、10cmと浅い。底面の南東部が一段低くなっている。埋土は、黒色土で柔かい。時期、性格については不明である。

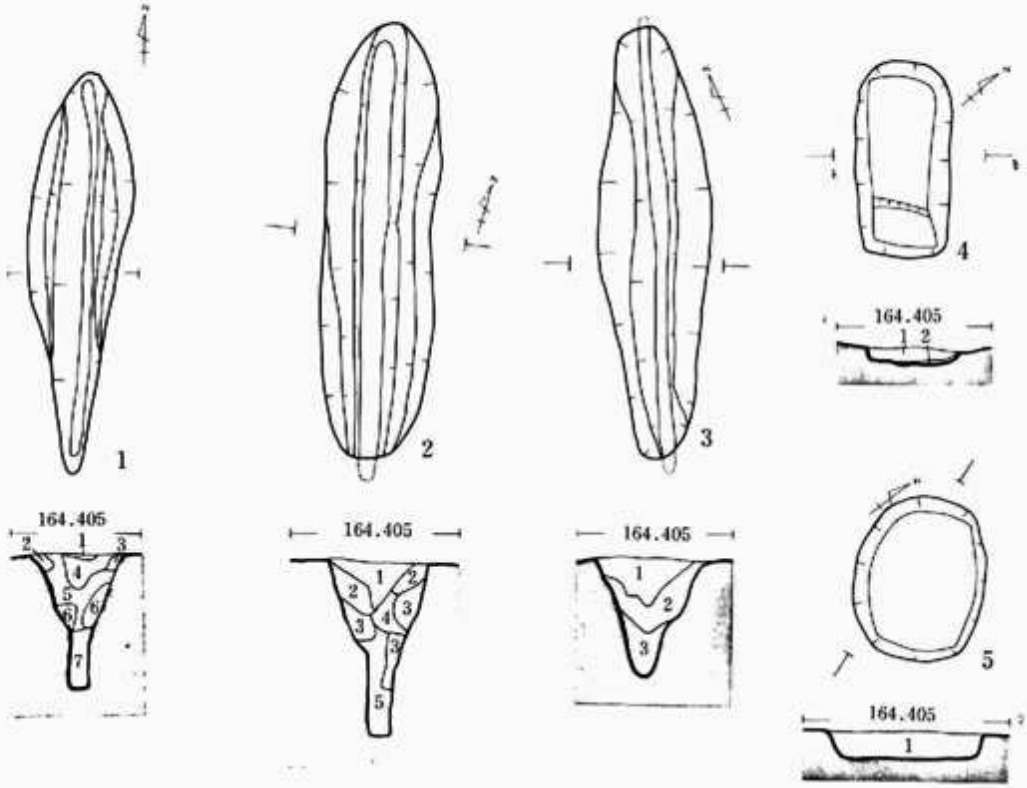
第54図－5に示したピットは、T_{19} トレンチで検出されている。平面形は、楕円形を呈し、直径100～125cmを測る。埋土は、黒色土の単層で柔かい。深さは、20cmと比較的浅い。時期・性格については不明である。

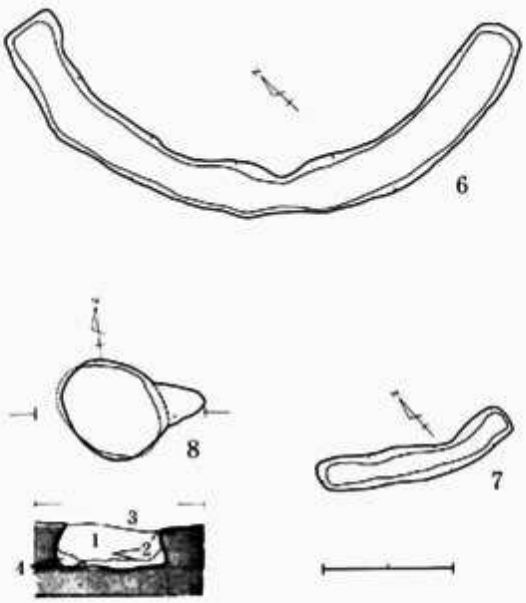
第54図－8に示したピットは、T_5 トレンチで検出された。平面形は、直径70～80cmを測る円形に近い楕円形を呈する。埋土は、黒色土～暗褐色土で比較的締りがある。深さは、確認面から50cmを測る。確認面のプランより底面のプランの方がやや広く、フラスコ型のピットと似ている。

第54図－6・7に示した溝状の遺構は、T_4 で検出されている。昭和63年の試掘調査の段階ではいずれも半円状の遺構が検出されているが、確認面から掘り込みが極めて浅かったことと試掘調査時点からそのままの状況で約1年半ほど経過していたこともあり、発掘調査時には、図に示した部分しか残されていなかった。

確認された溝の幅は、約40cmで、数センチの掘り込みしかなく、埋土は暗褐色土であった。底面は、木痕等の小さな穴がみられるほか凹凸もみられる。

形態からみると県内ほぼ全域に認められる奈良時代から平安時代の所謂円形周溝に類似している。





1．1．黒色土
2．褐色土混り暗褐色土
3．暗褐色土
4．黒褐色土
5．暗褐色土
6．褐色土混り暗褐色土
7．暗褐色土

2．1．黒色土
2．褐色土混り暗褐色
3．褐色土混り暗褐色土
4．黒褐色土
5．暗褐色土

3．1．黒色土
2．褐色土混り暗褐色土
3．暗褐色土

4．1．黒色土
2．褐色土混り暗褐色土

5．1．黒色土

6．1．黒褐色土
2．暗褐色土
3．褐色土混り暗褐色土
4．褐色土

第54図　陥し穴状遺構他

(4) 出土遺物（第55図）

1～4は、1号住居址から出土したものであり、5～7の拓本はT₁トレンチから出土したものである。

1・2は、ロクロ未使用の土師器甕である。1の口縁部の直径は14.5cmで、短く外反し、体部にほとんどふくらみを持たない。口縁部外面の調整は、体部は粗い篦ケズリが施こされ、内面は篦ナデ調整されている。胎土は、器面にも砂礫の粒が目立つほど粗い。

2の甕は、口縁の直径は17.3cmで短く外反する。外面は、頸部から下に篦ケズリ痕がみられ、内面は横ナデ及びナデによる調整がみられる。

3は、内面黒色処理の施こされたロクロ使用土師器坏である。口縁部径17cm、器高5.2cm、内外面とも篦ミガキ調整が施こされている。底面に僅かに糸切り痕がみられる。

4は、鉄製品で南隅近くの壁際から出土している。長さは、17.6cmを測り、幅は中央部で約1cmである。断面形は、長方形を呈し、先端部に刃がつけられている。のみの一種と考えられる。

8～13は、2号住居址から出土したものである。8は、ロクロ使用土師器坏で、口径13.3cmを測る。内面は、ていねいに篦ミガキ後黒色処理が施こされている。

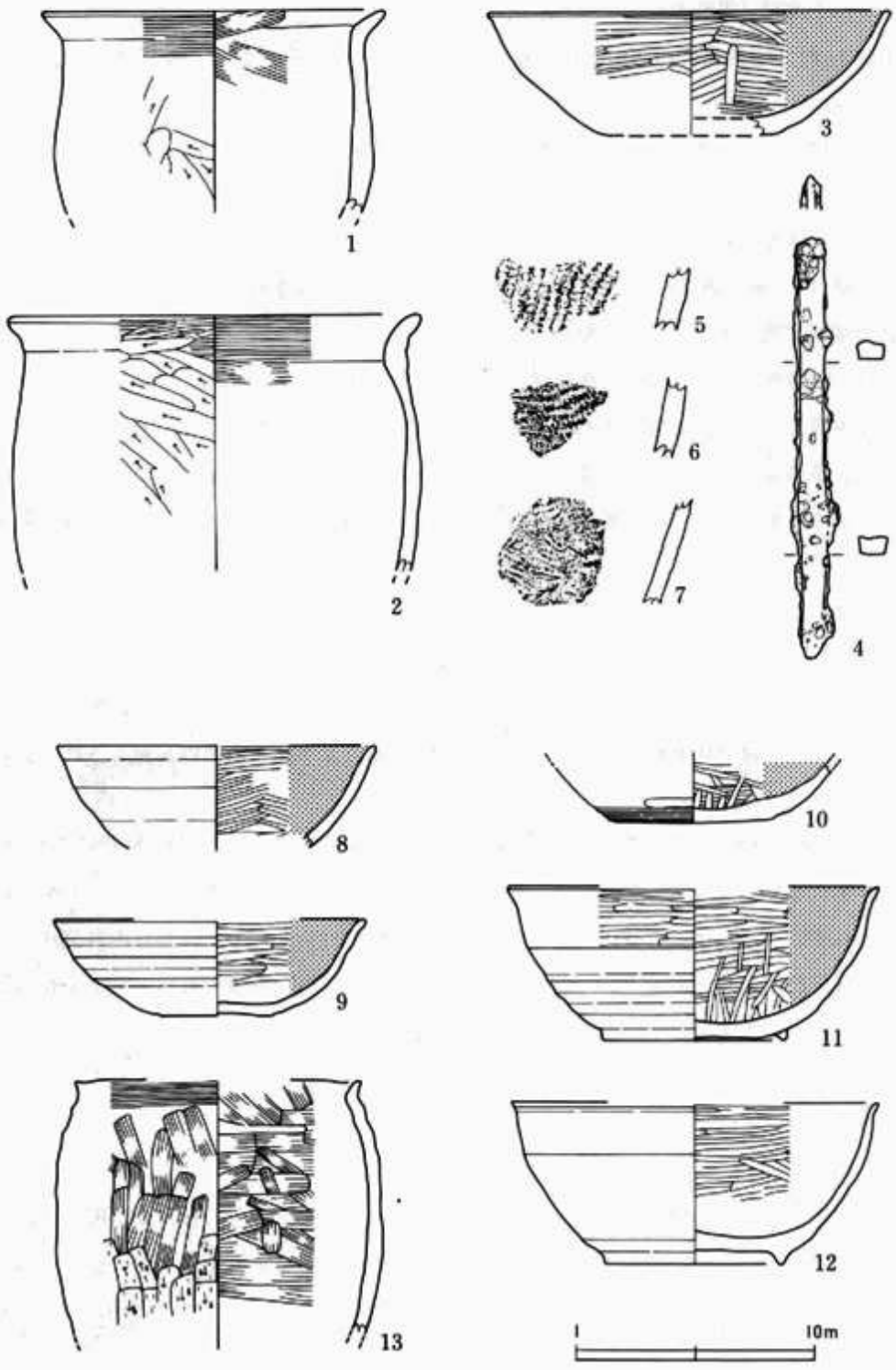
9もロクロ使用土師器坏である。口径13cm・器高4cm・底径4.7cmを測り、体部にややふくらみをもつ。外面は、ロクロ引き痕がみられ、内面は篦ミガキ後黒色処理が施こされ、底面に糸切り痕をもつ。

10は、土師器坏底部で、底径は6.5cmで内面は篦ミガキ後黒色処理、底面に糸り痕をもつ。11・12はいずれも極めて短かい高台の付いたロクロ使用の土師器坏で、内面はいずれも黒色処理が施こされている。11は、口径15.6cm・器高6.3cm・底径7.7cmを測る。体部は内湾気味に立ち上る。12は、口径15.5cm・器高6.7cm・底径7.5cmを測る。器形・調整とも11と極めて類似する。

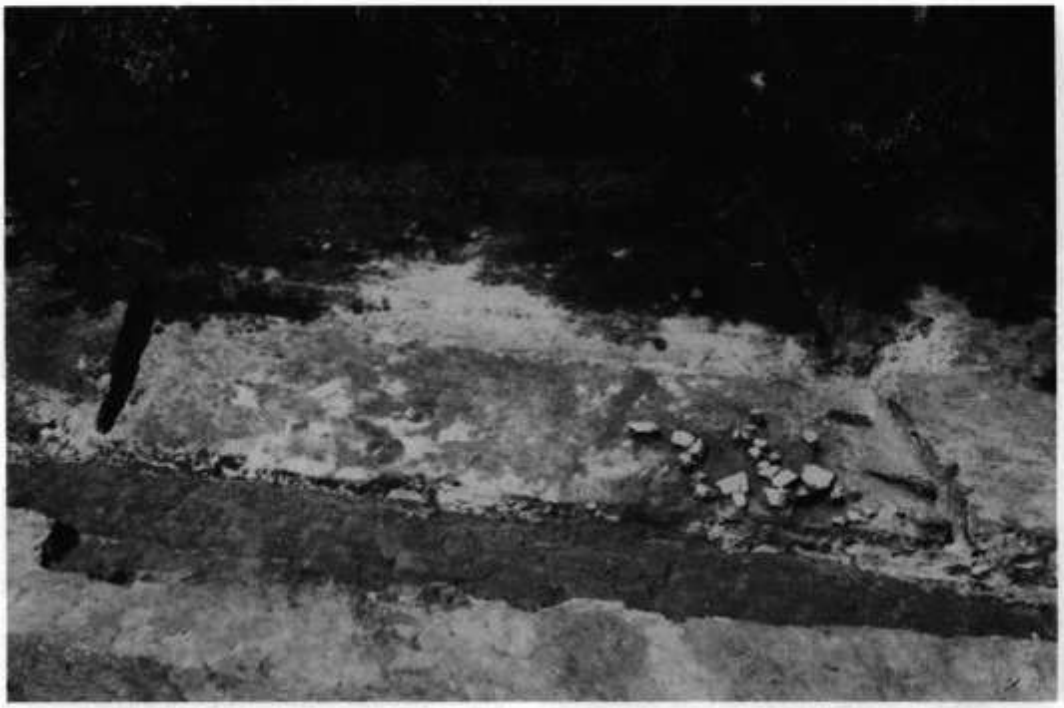
13は、ロクロ不使用の土師器甕で口径は12cmである。口縁部は、極めて短く、外反する。口縁は水平でない。外面は、ナデ及び粗い篦ケズリで内面も粗いナデ痕がみられる。胎土も表面に小礫のみられるほど粗い。

(5) おわりに

竪穴住居址2棟他の調査を行なった。出土土器からみると2棟ともほぼ同時期のものと考えられる。時期は、9世紀前半期と推定される。甕はいずれもロクロ未使用で、調整・器形など県内では、県北部に多くみられる甕と類似する。

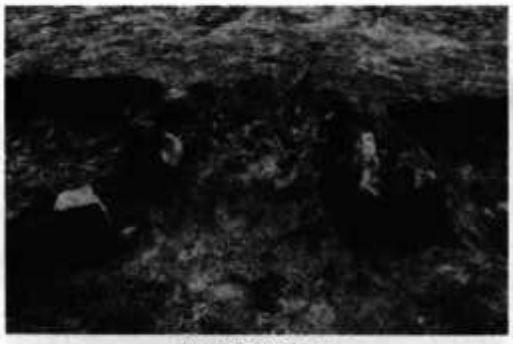


第55図　出土遺物



写真図版 I　黒石野平遺跡、I 号住居址

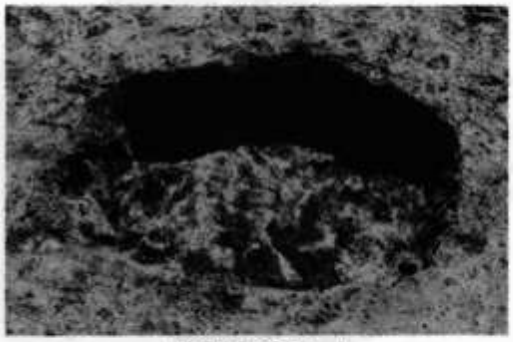
写真図版２　黒石野平遺跡、２号住居址



2号住居址カマド

1号住居址鉄器・炭化材検出状況

1号住居址下フラスコピット



T19トレンチピット

T4トレンチ溝状遺構

写真図版3　黒石野平遺跡

1号住居址出土坏

2号住居址出土坏

2号住居址出土坏

1号住居址出土鉄器

2号住居址出土甕

写真図版4　黒石野平遺跡、出土遺物

LE87－2172

LE87－2197

LE87－－2172

LE87－2197

LE87－2197

写真図版５　ＬＥ85－2197遺跡他　検出遺構

岩手県文化財調査報告第86集

岩手県内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ

発行日　平成2年3月

発　行　岩手県教育員会
岩手県盛岡市内丸10－1
編　集　岩手県教育員会事務局文化課
印　刷　杜陵印刷
盛岡市厨川四丁目2番6号